（3） 専門分野【基礎看護学】

〖ねらいと構成〗

基礎看護学は、看護の基盤として位置づけ、看護学の根幹をなす看護の本質と看護の基本技術を学ぶ。
基礎看護学では、対象を身体的、精神的、社会的に統合された存在として理解するために、看護の本質を学び、患者・医療従事者との関わりが自然に持てるようなコミュニケーション力を育む。また、科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な判断ができるよう看護の展開方法や臨床判断の基礎を学ぶ。日常生活援助技術では、事例を用いて対象の安全・安楽・自立/自律を考えた援助方法を考え実践する。
看護の基礎実習では、対象に必要な看護を考え、看護を展開する基礎を築いていく。

- 専門分野 66単位
  - 基礎看護学 11単位
    - 看護学原論 1単位 30時間 ― 看護の基盤となる看護の本質、看護の目的・対象・方法、看護師の役割と責務
    - 看護基本技術 1単位 30時間 ― 看護技術の概念
看護場面に共通する観察・記録・報告及び安全と安楽についての技術
    - コミュニケーション 1単位 30時間 ― 効果的かつ適切なコミュニケーションスキル
カンファレンスの運営方法
    - フィジカルアセスメント 1単位 30時間 ― フィジカルアセスメントの基本技術
バイタルサインの測定、系統別フィジカルアセスメント
    - 日常生活援助技術Ⅰ 1単位 30時間 ― 環境を調整する援助技術
運動と休息に関する援助方法
    - 日常生活援助技術Ⅱ 1単位 30時間 ― 身体の清潔と衣に関する援助方法
    - 日常生活援助技術Ⅲ 1単位 30時間 ― 食と排泄に関する援助方法
    - 診断・治療を助ける援助技術Ⅰ 1単位 15時間 ― 診察と感染予防に関する援助技術
呼吸と循環を整える援助技術
    - 診断・治療を助ける援助技術Ⅱ 1単位 30時間 ― 与薬と検査に関する援助技術
    - 看護を展開する技術 1単位 30時間 ― 対象の見つめ方と看護を展開する方法
    - 臨床判断の基礎 1単位 30時間 ― 科学的根拠に基づいた臨床判断を行う方法
  - 地域・在宅看護論 6単位
  - 成人看護学 4(6)単位
  - 老年看護学 3(4)単位
  - 小児看護学 3(4)単位
  - 母性看護学 3(4)単位
  - 精神看護学 4単位
  - 看護の統合と実践 4単位
  - 複数の教育内容を併せて教授する科目 5単位
  - 臨地実習 23単位
    - 看護の基礎実習Ⅰ 1単位 45時間 ― 【基礎看護学実習】受持患者に必要な日常生活援助を実践し、患者を理解し必要な看護を考える
    - 看護の基礎実習Ⅱ 2単位 90時間 ― 受持患者に必要な看護を理解し、受持患者の看護を計画的に展開する
    - 看護の基礎実習Ⅲ 2単位 90時間 ― 臨床判断を活用し、受持患者にとって必要な看護を考える
    - 暮らしを支える看護実習 2単位 90時間
    - 健康危機状況の看護実習 2単位 90時間
    - 人生の最終段階の看護実習 2単位 90時間
    - 専門職連携実習 2単位 90時間
    - 高齢者の生活を支える看護実習 2単位 90時間
    - こどもの成長発達と健康を支える看護実習 2単位 90時間
    - 生命の育みを支える看護実習 2単位 90時間
    - 心の健康と生活を支える看護実習 2単位 90時間
    - 看護の統合実習 2単位 90時間

科目群：専門分野【基礎看護学】

7年度	授業科目	看護学原論	担当教員	深谷　英子	単位（時間数）	1（30）
第1学年					担当時間数	30

学習目的・目標	目的：看護の基盤となる看護の本質を学ぶ。 目標：1.看護の目的を理解する。 2.看護の対象について理解する。 3.看護の方法について理解する。 4.看護師の役割と責務を理解する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	／	1.看護とは何か	講義	教室	
2	／	2.看護はどのように変化してきたのか	講義	教室	看護の変遷 課題提出
3	／	3-1.看護の対象とは	講義	教室	「看護覚え書」 レポート提出
4	／	3-2.人間にとっての健康とは何か	講義	教室	
5	／	3-3.人間にとっての病気とは何か	講義	教室	
6	／	4-1.看護はどのように実践するのか	講義	教室	
7	／	4-2.看護における倫理とは	講義	教室	
8	／	4-3.看護における倫理とは	発表会	教室	
9	／	4-4.看護になぜ看護理論が必要か	GW	教室	看護の理論家の 文献を読んで 課題提出
10	／	4-5.看護理論プレゼンテーション	発表会	教室	
11	／	5.看護師とはどのような職業なのか	講義	教室	
12	／	6-1.西尾市民病院施設見学 ・病院の概要と看護の役割 【看護部長】	施設見学	病院	
13	／	6-2.西尾市民病院施設見学 ・施設内見学	施設見学	病院	施設見学 レポート提出
14	／	7.看護になぜ倫理が必要か	GW・ 発表会	教室	実習後の 認識の変化 レポート提出
15	／	8.看護とは何か パフォーマンス課題相互評価	評価会	教室	A3用紙1枚 作品提出

評価方法	課題提出と小テストで評価します。
教科書	講談社　『ナースがみる病気』 医学書院 『系統看護学講座　専門Ⅰ　看護学概論』 医学書院 『系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ』 現代社　『看護覚え書』 西東社　『ナイチンゲールの看護覚え書　イラスト・図解でよくわかる』 日本看護協会出版会 『看護の基本となるもの』 サイオ出版 『新訂版　看護実践に生かす看護理論19』
参考書	日本看護協会出版会 『科学的看護論』
履修上の留意点	・授業の理解を深めるための事前学習課題はほぼ毎回あります。そのつもりで計画的に学習をしましょう。 ・提出物は8時50分に提出です。1時限目の授業がない場合は、授業がスタートする時間の10分前に提出です。 ・提出遅れの場合、提出時間までに事前連絡をしてください。事前連絡がなければ課題点はありません。 ・提出遅れの場合、やむを得ない理由でなければ、課題点はありません。

科目群：専門分野【基礎看護学】

7年度	授業科目	看護基本技術	担当教員	近藤　ゆかり 伴　ひろみ	単位（時間数）	1（30）
第1学年					担当時間数	30

【近藤ゆかり】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験　6年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務での看護経験に基づいて、看護技術を支える要素について講義する。
【伴ひろみ】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験11年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務での看護の経験に基づいて、看護技術の具体的な方法を講義・演習に取り入れている。

学習目的・目標

目的：　看護技術の概念と看護場面に共通する観察・記録・報告及び安全と安楽についての技術を学ぶ。

目標：1. 看護技術と看護技術を支える要素について理解できる。
①看護技術の概念を理解できる。
②医療安全について理解し、感染防止策を実践できる。
③看護倫理について理解し、看護場面における対象への説明や配慮、安全・安楽・自立を考える必要性を理解できる。
④看護技術を適切に実施するための要素について理解できる。
2. 看護の基本となるボディメカニクスの原理を理解し、その方法を身につける。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	1. 技術の学習方法について 1）看護基本技術の位置づけなど 2)看護技術の授業について	講義	教室	近藤	
2	/	2. クラスメイトを知ろう 関心を持つこと、関係を築くこと	講義 グループワーク	体育館	近藤	レポート
3	/	3. 自分とクラスメイトの1日の生活を知ろう 人それぞれの生活スタイル、個別性を知ろう	講義・グループワーク	教室	近藤	レポート
4	/	4. 倫理について考えよう	講義・グループワーク	教室	近藤	レポート
5	/	5. 論理的に考えることを始めよう	講義・グループワーク	教室	近藤	レポート
6	/	6. 看護技術について 安全・安楽・自立/自律について考えよう	講義・グループワーク	実習室	近藤	レポート
7	/	7. 看護技術とは 看護技術で大切にしたいこと 自分の努力目標を考えよう	講義・グループワーク	実習室	近藤	レポート
8 9	/	8. 身体各部の測定 1）身体計測の目的と留意事項 2）身体計測の実践	講義・GW 校内実習	実習室	伴	事前課題 校内実習後のレポート
10	/	9. ボディメカニクス技術の基本	講義	体育館	伴	レポート
11	/	10. 感染防止の基礎 1）感染成立の条件および院内感染防止の基本 2）感染経路別予防策	講義	教室	伴	ワークシート
12	/	3）感染予防の具体的方法 ・スタンダードプリコーション ・洗浄・消毒・滅菌 ・感染性廃棄物の取り扱い	講義	教室	伴	ワークシート
13 14	/	4）スタンダードプリコーションの実践	校内実習	実習室	伴	事前課題 校内実習後のレポート
15	/	試験、授業のまとめ		教室	伴	

評価方法	レポートと試験で総合評価します。配点は100点です。 1～7回　（近藤先生）の範囲がレポート評価で50点 8～14回（伴先生）の範囲が筆記試験45分で50点 レポートの提出状況、内容も評価に反映します。
教科書	使用する教科書は、1～7回目（近藤先生）は①、8～14回目（伴先生）は①②③を使用します。 ①医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　『基礎看護技術Ⅰ』 基礎看護学② ②医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　『基礎看護技術Ⅱ』 基礎看護学③ ③医学書院　『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版』
参考書	
履修上の留意点	授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 校内実習に際しては、看護者役・患者役を体験します。 実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群:専門分野【基礎看護学】

7年度	授業科目	コミュニケーション	担当教員	石川　暁美	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30

学習目的・目標	目的:　看護師として医療の現場で効果的かつ適切なコミュニケーションスキルを学ぶ。 目標:　1. コミュニケーションの特徴と看護・医療におけるコミュニケーションの重要性を理解する。 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、適切なメッセージを伝える方法を学ぶ。 3. 医療専門職の一員として、多職種との連携・協働を図るために必要なコミュニケーションを学ぶ。 4. カンファレンスの必要性と適切な運営方法を学ぶ。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	/	1. コミュニケーションの意義と目的 1)コミュニケーションとは 2)看護・医療におけるコミュニケーション	講義	教室	
2	/	2-1. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 1)聴く 2)話す	講義	教室	
3	/	2-2. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 3)声を届ける技法(竹内レッスン)	講義 演習 ロールプレイ	体育館	
4	/	2-3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4)相手のメッセージを受け止める	講義	教室	
5	/	2-4. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 5)構成要素と成立過程	講義	教室	課題提示
6	/	3. 効果的なコミュニケーションの実際 1)情報収集の技術 2)説明の技術	講義	教室	
7	/	4. アサーティブ・コミュニケーション 1)自分から出る 2)自分を出す 3)相手を知り、相手を生かす	講義	教室	
8	/	8. コミュニケーションの基本スキル(集団編) 1)カンファレンスの種類・特徴 2)実習前の準備:役割の決定、テーマの選び方、カンファレンスの運営方法	講義	教室	
9	/	9. ショートカンファレンスの模擬体験	講義	教室	
10	/	10. プロセスレコード　歴史、特徴、再構成 看護場面のプロセスレコードの書き方	講義	教室	
11	/	11. プロセスレコードを使って看護場面を振り返る 1)相手との対人関係、看護の視点からみた対人関係 2)ケースカンファレンスの進め方	講義	教室	課題提示
12	/	12. プロセスレコードを書いてみよう	講義	教室	
13	/	13. ケースカンファレンスを模擬体験する 1)大腸がん患者の事例　全体像理解	講義	教室	
14	/	2)事例を読む	講義	教室	
15	/	試験、授業のまとめ		教室	

評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施します。配点は筆記試験80点、課題20点で評価します。
教科書	①医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅰ『基礎看護学技術Ⅰ』 基礎看護学② ②日本看護協会 『看護場面の再構成』改訂版　宮本眞巳
参考書	医歯薬出版 『新版 看護のコミュニケーション・センス　アクティブラーニングで仲間とみがく』 メヂカルフレンド社 『知識と実践がつながる看護学生のためのコミュニケーションLesson』 奥山美奈
履修上の留意点	

科目群：専門分野【基礎看護学】

7年度	授業科目	フィジカルアセスメント	担当教員	加藤　美佑紀 近藤　ゆかり 伴　ひろみ	単位（時間数）	1（30）
第1学年					担当時間数	30

【加藤美佑紀】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験8年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務の看護の経験で培った対象のアセスメント技術を、体験的に学べるように演習形式で行っている。
【近藤ゆかり】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験6年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務の看護の経験で培った対象のアセスメント技術を、体験的に学べるように演習形式で行っている。
【伴ひろみ】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験11年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務の看護の経験で培った対象のアセスメント技術を、体験的に学べるように演習形式で行っている。

学習目的・目標	目的：　日常生活行動の視点から看護を考えるためのフィジカルアセスメントができる 目標：　1. フィジカルアセスメントの基本技術を修得できる。 2. 対象に必要なフィジカルイグザミネーションを正確に実施できる。 3. 収集した情報が何を意味しているのかを考えることができる。 4. 収集した情報から状態をアセスメントし、看護を考えることができる。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	1.イントロダクション 1-1.フィジカルアセスメントを学ぶ意味 1-2.フィジカルイグザミネーション （問診、視診、触診、打診、聴診）	講義 校内実習	実習室	加藤	
2	/	2.「生きていること」のアセスメント ・バイタルサイン 2-1.体温・脈拍・呼吸	講義 校内実習	実習室		事後課題
3	/	2-2.血圧	講義 校内実習	実習室		事後課題
4	/	2-3.意識レベル・対光反射	講義 校内実習	実習室		
5	/	3.「トイレに行く」ことのアセスメント 3-1.腹部の観察（視診、聴診、打診、触診）	講義 校内実習	実習室	伴	事前課題
6	/	3-2.関節可動域（ROM）・徒手筋力検査（MMT）	講義 校内実習	実習室		事前課題
7	/	4.「息をする」ことのアセスメント 4-1.呼吸音	講義 校内実習	実習室	加藤	
8	/	4-2.酸素飽和度・チアノーゼ	講義 校内実習	実習室		事後課題
9	/	4-3.浮腫、頸動脈怒張	講義 校内実習	実習室		
10	/	4-4.心音	講義 校内実習	実習室		
11	/	5-1.「血圧」「脈拍」の調節	講義	教室		事後課題
12	/	5-2.「体温」の調節	講義	教室	近藤	
13 14	/	6.OSCE	校内実習	実習室	加藤	
15	/	試験、授業のまとめ		教室		

評価方法	筆記試験・課題・OSCEで総合評価します。配点は配点は1～4・7～11回（加藤先生）が80点、5～6回（伴先生）は15点、12回（近藤先生）が5点です。筆記試験は45分で実施し、配点は1～4・7～11回（加藤先生）が40分で50点、12回（近藤先生）が5分で5点です。5～6回（伴先生）は筆記試験はありません。課題は1～4・7～11回（加藤先生）が10点、5～6回（伴先生）が15点です。13～14回目（加藤先生）はOSCE 20点です。 再試験は筆記試験100点で評価します。
教科書	メディックメディア 『看護がみえる フィジカルアセスメント vol. 3』 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅰ 『基礎看護技術Ⅰ』 基礎看護学②
参考書	
履修上の留意点	校内実習における留意点 前日の授業後に準備をし、当日の授業後に片づけをします。詳しい指示は、掲示板で掲示します。 演習は学校指定のジャージで行います。頭髪は白衣に順じますので、身だしなみを整えてください。 OSCEは、導入後2～3週間後に実施します。計画的に練習しましょう。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【基礎看護学】

7年度	授業科目	日常生活援助技術Ⅰ	担当教員	鈴木　陽子 水野　千恵	単位（時間数）	1（30）
第1学年					担当時間数	30

【水野千恵】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験9年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務の看護の経験に基づいて、運動と休息を整える具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。
【鈴木陽子】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験14年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務の看護の経験に基づいて、療養環境を整える具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。

学習目的・目標	目的：　看護場面に必要な基本となる援助技術を学ぶ。 目標：1. 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を修得する。 2. 健康にとって運動-休息とは何かを理解する。 3. 運動と休息のバランスを整えるための援助方法を修得する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	1. 療養生活の環境 ・人と環境 ・療養生活と環境 ・生活環境の調整 2. 病室の環境のアセスメントと調整	講義	教室	鈴木	
2 3	／	3. 病床を整える ・ベッドメーキングの実施	校内実習	実習室	鈴木	・事前課題 ・校内実習後のレポート
4 5	／	・臥床患者のシーツ交換の実施	校内実習	実習室	鈴木	・事前課題 ・校内実習後のレポート
6	／	4. ベッド周囲の環境整備	校内実習	実習室	鈴木	・校内実習後のレポート
7	／	5. 活動・運動 ・活動・運動の生理学的メカニズム ・活動・運動のニーズについてアセスメントする	講義	教室	水野 鈴木	・事前課題
8	／	6. 休息・睡眠 ・休息・睡眠の生理学的メカニズム ・休息・睡眠のニーズについてアセスメントする リラクセーションを促す技術（看護に使えるリフレクソロジー）	講義 校内実習	教室	水野 鈴木	・事後課題 ・校内実習後のレポート
9 10	／	7. 活動・運動を促す援助方法 （条件設定：麻痺のある患者） ・ベッド上での移動 ・体位変換	校内実習	実習室	水野 鈴木	・事前課題 ・校内実習後のレポート
11 12	／	・車椅子への移動・移乗 ・ベッド（ストレッチャー）の移送	校内実習	実習室	水野 鈴木	・事前課題 ・校内実習後のレポート
13	／	8. 苦痛の緩和・安楽確保の技術 ・安楽な体位の工夫（ポジショニング）	校内実習	実習室	水野 鈴木	・校内実習後のレポート
14 15	／	『臥床患者のシーツ交換』 技術チェック	校内実習	実習室	鈴木	

評価方法	筆記試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。 （配点は1～6回（鈴木先生）の範囲が20分で45点、7～13回（水野先生）の範囲が25分で55点） 試験は、講義時間外の時間で実施します。
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　『基礎看護技術Ⅱ』　基礎看護学③ 医学書院　『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』 西東社『ナイチンゲールの看護覚え書イラスト・図解でよくわかる』
参考書	
履修上の留意点	授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 校内実習に際しては、看護者役・患者役を体験します。 実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。 技術チェックは、技術チェック導入後2～3週間後に実施します。計画的に練習しましょう。 技術チェックは、合格できなければ再チェックを実施し合格できるまで行います。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【基礎看護学】

7年度	授業科目	日常生活援助技術Ⅱ	担当教員	近藤　ゆかり	単位（時間数）	1（30）
第1学年					担当時間数	30

授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験6年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院での臨床経験をもとに培った看護技術から、清潔ケアの方法について講義する。

学習目的・目標	目的：　看護場面に必要な清潔に関する基本となる援助技術を学ぶ。 目標：　1. 身体の清潔への援助の必要性を理解し方法論を修得する。 2. 衣生活に関する援助の必要性を理解し方法論を修得する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1・2	／	1. 授業の全体が理解できる 2. 清潔の援助に必要な基礎知識を解釈する 3. 清拭に必要な湯の準備 4. ウォッシュクロスの使い方 5. 上肢と下肢の清拭を実施する 6. 寝衣交換を実施する	講義 校内実習	教室 実習室	事前課題 基礎看護技術Ⅱ P171～177、184～189、224～231を読む。 清拭、寝衣交換の動画視聴 演習レポート
3・4	／	7. 洗髪の実施	校内実習	実習室	洗髪の動画視聴 演習レポート
5・6	／	8. 足浴の実施	校内実習	実習室	足浴の動画視聴 演習レポート
7	／	9. 安全な清潔ケアを考える	校内実習	実習室	清拭の動画視聴 アクションシート
8	／	10. 安楽な清潔ケアを考え、実施する	校内実習	実習室	清拭練習 アクションシート
9・10	／	11. 頭皮、頭髪の清潔ケアがなぜ必要か考え実施する	校内実習	実習室	洗髪練習 アクションシート
11	／	12. 足浴の清潔ケアがなぜ必要なのか考え実施する	校内実習	実習室	足浴練習 アクションシート
12・13	／	13. 安全・安楽・自立を考えた入浴介助方法を考える 14. 技術チェックオリエンテーション 15. 事例患者に必要な清拭を考え実施する ・“生命力の消耗を最小にする”“健康の回復を促す”という視点を考えて適切な方法を考える	校内実習	実習室	事前課題 シャワー浴の動画視聴 アクションシート 清拭練習
14・15	／	清拭の技術チェック		実習室	成長シート

評価方法	事前課題・演習レポート・成長シートで50点、筆記試験50点で評価します。 試験は、講義時間外の時間で実施し、試験時間は45分です。 事前課題・演習レポートの提出状況、内容も評価に反映します。 夏季休暇に課題があります。 再試験は、筆記試験のみで行います。
教科書	①医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　『基礎看護技術Ⅱ』 基礎看護学③ ②医学書院　『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』
参考書	①医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　『皮膚』 成人看護学⑫ ②医学書院　系統看護学講座　専門基礎分野　『解剖生理学』 人体の構造と機能①
履修上の留意点	実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、授業に臨んでください。 校内実習に際しては、看護師役・患者役を体験します。 前日の授業後に必要物品の準備をし、当日の授業後に片づけをします。 毎回、事前課題とレポート課題があります。 13回目の技術チェックオリエンテーション後、2～3週間後に試験日を予定します。計画的に練習してください。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【基礎看護学】

7年度	授業科目	日常生活援助技術Ⅲ	担当教員	近藤　ゆかり 伴　ひろみ	単位（時間数）	1（30）
第1学年					担当時間数	30

【近藤ゆかり】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験6年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務の看護の経験に基づいて、食の具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。
【伴ひろみ】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験11年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務の看護の経験に基づいて、排泄ケアの具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。
学習目的・目標	目的：　日常生活に必要な「食べる」と「トイレに行く」ことを支える援助技術を学ぶ。 目標：　1. 健康レベルや食行動の自立度に応じた食事・栄養摂取に関する援助方法を修得する 2. 患者が排泄できるための援助方法を修得する

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	1.食事援助の基礎知識 1. 食事の意義 2. 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 3. 医療施設で提供される食事	講義	教室	近藤	看護形態機能学3．4回目の講義の復習
2	／	2.食事摂取の介助 1. 援助の基礎知識 2. 援助の実際 3.「栄養」のコンセプトから食事介助を考える	講義 GW	教室	近藤	事前課題 演習課題
3	／	＜食事介助の実施＞	小テスト 校内実習	実習室	近藤	レポート
4	／	3.非経口的栄養摂取の援助 1. 経管栄養法 1）援助の基礎知識　　2）援助の実際 2. 中心静脈栄養法	講義	教室	近藤	
5 6	／	＜経鼻経管栄養法の実施＞	小テスト 校内実習	実習室	近藤	事前課題 レポート
7	／	4.自然排尿および自然排便の援助 1.「トイレに行く」のアセスメント 2. 自然排尿および自然排便の援助 1）自然排泄を促す援助	講義	教室	伴	事前課題
8	／	2）床上排泄援助 ＜腹部マッサージの実施＞ ＜便器を使った床上排泄援助の実施＞	講義 校内実習	実習室	伴	校内実習後 レポート
9 10	／	5.排便を促す援助 1. 排便障害と排便を促す援助の基礎知識 ＜グリセリン浣腸の実施＞	講義 校内実習	実習室	伴	校内実習後 レポート
11	／	＜摘便の実施＞ ＜坐薬の実施＞	校内実習	実習室	伴	校内実習後 レポート
12	／	6.導尿 1. 排尿障害と導尿の基礎知識 2. 膀胱留置カテーテルの管理	校内実習	実習室	伴	
13 14	／	＜一時的導尿の実施＞	校内実習	実習室	伴	校内実習後 レポート
15	／	試験、授業のまとめ		教室	伴	

評価方法	筆記試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。 （配点は、1～5回　（近藤先生）の範囲が20分で45点、6～14回（伴先生）の範囲が25分で55点）
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　『基礎看護技術Ⅱ』　基礎看護学③ 医学書院　『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』
参考書	
履修上の留意点	授業に必要な物品などを忘れないように注意してください。 校内実習に際しては、看護者役・患者役を体験します。 実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【基礎看護学】

7年度	授業科目	診断・治療を助ける援助技術Ⅰ	担当教員	杉浦　佐江子 杉山　敏江	単位（時間数）	1（15）
第1学年					担当時間数	15

【杉山　敏江】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験12年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務での看護の経験に基づいて、看護援助の具体的な方法を講義・演習に取り入れている。
学習目的・目標	目的：　看護場面に必要な診断・治療の援助技術を学ぶ。 目標：　1．感染予防の具体的な援助方法を修得する 　　2．呼吸・循環を整える援助方法を修得する

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	／	1．診察と看護 ・診察の介助の目的 2．無菌操作 ・無菌操作の基礎知識 ・対策の実際	講義	教室	事前課題
2 3	／	＜無菌操作の実施＞	校内実習	実習室	事前課題 校内実習後のレポート
4	／	3．呼吸・循環を整える技術 ・酸素療法 ・排痰ケア（口腔・鼻腔内吸引） ・吸入	講義	教室	事前課題
5 6	／	＜酸素吸入、ネブライザー吸入、口腔・鼻腔内吸引の実施＞	校内実習	実習室	事前課題 校内実習後のレポート
7	／	4．包帯法 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ＜包帯法の実施＞	講義 校内実習	実習室	事前課題 校内実習後のレポート
8	／	試験		教室	

評価方法	筆記試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施します。配点は試験が80点、課題が20点です。
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　『基礎看護技術Ⅰ』　基礎看護学② 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　『基礎看護技術Ⅱ』　基礎看護学③ 医学書院　『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』 インターメディカ　『写真でわかる　臨床看護技術②　アドバンス』　新訂版
参考書	
履修上の留意点	授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 校内実習に際しては、看護者役・患者役を体験します。 実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【基礎看護学】

8年度	授業科目	診断・治療を助ける援助技術Ⅱ	担当教員	加藤　美佑紀 杉浦　佐江子	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	30

【加藤美佑紀】	
授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験8年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務で培った看護技術に基づいて、診断・治療に必要な知識と技術の具体的な方法を講義・演習に取り入れている。

学習目的・目標	
	目的：　看護場面に必要な診断・治療の援助技術を学ぶ。 目標：　1. 与薬の援助方法を修得する。 　　2. 検査の援助方法を修得する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	1. 与薬の基礎知識 ・与薬の目的　・誤薬防止、発生時の対応 2-1. 与薬の実際 ・与薬の種類と特徴、留意事項	講義	教室	加藤	
2	／	2-2. 与薬の実際 ・経口与薬　・口腔内与薬 ・吸入　・経皮的与薬	校内実習	実習室		事前課題 校内実習後 レポート
3	／	3-1. 注射法の実際 ・注射法の基礎知識 ・針刺し事故 ・協同学習、ジグソー学習法について	講義	教室		
4	／	ジグソー学習　各専門家ごとに学習・技術訓練	校内実習	実習室		
5	／	ジグソー学習　確認会	校内実習	実習室		
6 7	／	3-2. 注射法の実際 ・筋肉内注射法の実施 【ジグソー学習法】	校内実習	実習室		事前課題 校内実習後 レポート
8	／	3-3. 注射法の実際 ・点滴静脈内注射法の準備 【ジグソー学習法】	校内実習	実習室		事前課題 校内実習後 レポート
9 10	／	3-4　注射法の実際 ・点滴静脈内注射法の実施 【ジグソー学習法】	校内実習	実習室		事前課題 校内実習後 レポート
11	／	3-5　注射法の実際 ・皮下注射法の実施	校内実習	実習室		事前課題 校内実習後 レポート
12	／	4-1. 検査と看護 ・検査の目的と種類 ・検査における看護師の役割	講義	教室	杉浦 加藤	
13 14	／	4-2. 検査と看護 ・静脈血採血の実施	校内実習	実習室		事前課題 校内実習後 レポート
15	／	試験、授業のまとめ		教室	加藤	

評価方法	配点は、1～11回（加藤先生）で80点、12～14回（杉浦先生）で20点です。 評価は試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、1～11回が35分で55点、12～14回が10分で15点です。課題は1～11回で25点、12～14回で5点です。
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　『基礎看護技術Ⅱ』 基礎看護学③ 医学書院 『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』 第3版
参考書	
履修上の留意点	授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 演習に際しては、看護者役・患者役を体験します。実習室は、臨床の場であることを認識し、 服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【基礎看護学】

7年度	授業科目	看護を展開する技術	担当教員	深谷　英子	単位（時間数）	1（30）
第1学年					担当時間数	30

授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験8年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（循環器・外科病棟）での患者への看護経験に基づいて、看護を展開する技術を講義する。

学習目的・目標

目的：対象の見つめ方と看護を展開する方法（道具の使い方）を学ぶ。

目標：1. 看護を展開するための基盤となる考え方がわかる。
2. 患者を理解するために必要な学習の方法がわかる。
3. アセスメントの枠組みに沿って、患者理解に必要な情報を収集できる。
4. 病態関連図を使って、患者の全体像を描くことができる。
5. 収集した情報をゴードンの機能的健康パターンに沿って、アセスメントができる。
6. 全体関連図を使って、看護問題を明確化することができる。
7. 患者にとって最善な看護の計画ができる。
8. 看護の実施と評価の方法がわかる。

回数	月日	学習内容	方法	場所	教科書
1	／	1. 看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方	講義	教室	①②
2	／	2-1. 看護過程（A氏：誤嚥性肺炎の事例） ・ゴードンの機能的健康パターンの理解	講義	教室	②
3	／	3-1. 看護過程（B氏：心不全の事例） ・情報収集	講義	教室	③④
4	／	3-2. 看護過程（B氏：心不全の事例） ・情報収集	講義	教室	③④
5	／	3-3. 看護過程（B氏：心不全の事例） ・病態関連図	講義	教室	③④
6	／	3-4. 看護過程（B氏：心不全の事例） ・病態関連図	講義	教室	③④
7	／	3-5. 看護過程（B氏：心不全の事例） ・病態関連図	講義	教室	③④
8	／	3-6. 看護過程（B氏：心不全の事例） ・ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント	講義	教室	②③④
9	／	3-7. 看護過程（B氏：心不全の事例） ・ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント	講義	教室	②③④
10	／	3-8. 看護過程（B氏：心不全の事例） ・ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント	校内実習	実習室	②③④
11	／	3-9. 看護過程（B氏：心不全の事例） ・ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント	校内実習	実習室	②③④
12	／	3-10. 看護過程（B氏：心不全の事例） ・ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント	講義	教室	②③④
13	／	3-11. 看護過程（B氏の事例） ・全体関連図、看護問題の明確化	講義	教室	②③
14	／	3-12. 看護過程（B氏の事例） ・計画立案	講義	教室	②③
15	／	3-13. 看護過程（B氏の事例） ・実施、評価、看護記録	講義	教室	②③

評価方法	提出物と小テストで評価します。提出物80点、小テスト20点

教科書	①医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　『基礎看護技術Ⅰ』 ②メディックメディア『看護がみえる 4 看護過程の展開』 ③医学書院　系統看護学講座 『呼吸器』 成人看護学2 ④医学書院　系統看護学講座　 『循環器』 成人看護学3 ⑤メディックメディア『病気がみえる 2 循環器』
参考書	
履修上の留意点	・授業の理解を深めるための事前学習課題はほぼ毎回あります。そのつもりで計画的に学習をしましょう。 ・提出物は8時50分に提出です。1時限目の授業がない場合は、授業がスタートする時間の10分前に提出です。 ・提出遅れの場合、提出時間までに事前連絡をしてください。事前連絡がなければ課題点はありません。 提出遅れの場合、やむを得ない理由でなければ、課題点はありません。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【基礎看護学】

8年度	授業科目	臨床判断の基礎	担当教員	笹尾　みゆき	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	30

授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験12年、産婦人科病棟と外来での助産師臨床経験3年
実務経験を活かした実践的な授業内容	臨床で実践した経験に基づいて、具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。

学習目的・目標	目的：1. 臨床判断の基礎を学び、科学的根拠に基づいた論理的思考を習得する。 2. 最善の看護を考えるために、絶え間ない思考のサイクルを行う必要性を理解する。 目標：1. 知識の活用や対象の背景を知り、今後起こりうることを予測できる。 2. 看護技術を活用した看護を実践し、対象におこっていることを分析し次の関わりに活かすことができる 3. リフレクションを繰り返すことが、最善の看護につながることを説明できる。 4. 倫理的認識や価値認識、技能的スキルが看護に影響することをせつめいできる 5. シミュレーションでの実践の経験を語ったり、討論することで意味づけができる。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	/	1. 臨床判断を学ぶ意義がわかる。 シラバスの説明 臨床判断の基礎での学びにビジョンゴールを立てる。	講義 GW	教室	
2・3	/	2. 看護の基礎実習Ⅱを振り返り、必要な看護を考える。 看護を行う上で必要な知識は何だったかを実習の振り返りから考える。	講義 GW	教室	
4	/	3. 看護過程の事例、疾患の事前学習 事例：心不全　清富世夫さん	講義	実習室	自己学習
5・6	/	4. 小テスト　シミュレーション　事例：心不全　清富世夫さん シミュレーション、デブリーフィング、発表 最も適切な看護を考える。	演習 GW	実習室	リフレクションシート
7	/	5. 看護過程の事例、疾患の事前課題 事例：胃癌　伊節夫さん	講義	教室	自己学習
8・9	/	6. 小テスト　シミュレーション　事例：胃癌　伊節夫さん シミュレーション、デブリーフィング、発表 最も適切な看護を考える。	演習 GW GW	実習室	リフレクションシート
10	/	7. 看護過程の事例、疾患の事前課題 事例：すい臓がん（粋蔵子さん）	講義	教室	自己学習
11・12	/	8. 小テスト　シミュレーション　事例：すい臓がん（粋蔵子さん） シミュレーション、デブリーフィング、発表 最も適切な看護を考える。	演習 GW	実習室	リフレクションシート
13	/	9. 看護過程(脳梗塞）の事例、小テスト、グループワークで観察視点を考える OSCEの準備 事例：脳梗塞	講義	教室	自己学習
14・15	/	10. OSCE 事例：脳梗塞	演習	実習室	

評価方法	小テストと課題で総合評価します。小テストは45点、OSCEは20点。課題点は35点です。
教科書	1回目は①、2・3回目は①②、4・5・6回目は②④⑧、7～12回目は②⑤⑨、13回目以降は②⑥⑩を使用します。 ①医学書院　系統看護学講座 『臨床看護総論』 基礎看護学④ ②医学書院　系統看護学講座 『解剖生理学』 人体の構造と機能① ③医学書院　系統看護学講座 『呼吸器』 成人看護学② ④医学書院　系統看護学講座 『循環器』 成人看護学③ ⑤医学書院　系統看護学講座 『消化器』 成人看護学⑤ ⑥医学書院　系統看護学講座 『脳・神経系』 成人看護学⑦ ⑦メディックメディア 『病気がみえる　呼吸器』 ⑧メディックメディア 『病気がみえる　循環器』 ⑨メディックメディア 『病気がみえる　消化器』 ⑩メディックメディア 『病気がみえる　脳・神経』
参考書	
履修上の留意点	グループワークで思考や演習をしていきます。 課題の提出は、指定日・時間を厳守してください。

※実務経験は令和7年4月1日現在

（3） 専門分野【地域・在宅看護論】

〖ねらいと構成〗

地域・在宅看護論では、地域の特徴を把握し、地域で暮らしながら生活している人々とその家族を理解する。そして対象が望む生活の質を維持・向上させるための看護の基礎を学ぶ。そのために、低学年から地域に出向き生活している人々の願いや価値観を知るフィールドワーク、訪問看護師の同行、住み慣れた地域で望む生活が送れるように支えている地域包括支援センターのフィールドワークを組み入れた。そして、臨地実習をとおして、地域で療養している人々を支える看護の実際から看護者の役割を考えることをねらいとする。

- 専門分野（66単位）
  - 基礎看護学（11単位）
  - 地域・在宅看護論（6単位）
    - 西尾市の暮らし　1単位　30時間
      - 西尾市の歴史・文化、地域の暮らしと地域で生活する人々の価値観・信条
    - 暮らしを支える看護Ⅰ　1単位　15時間
    - 暮らしを支える看護Ⅱ　1単位　15時間
      - 地域の暮らしと必要な看護
        訪問看護見学
      - 地域包括ケアシステム
        地域包括支援センター・保健センターの活動
    - 暮らしを支える看護方法Ⅰ　1単位　30時間
      - 地域・在宅看護の対象、制度、清潔援助技術
    - 暮らしを支える看護方法Ⅱ　1単位　30時間
      - 地域・在宅看護における多職種連携と暮らしを支える看護技術
    - 暮らしを支える看護方法Ⅲ　1単位　15時間
      - 地域・在宅看護における看護過程の展開
  - 成人看護学（4(6)単位）
  - 老年看護学（3(4)単位）
  - 小児看護学（3(4)単位）
  - 母性看護学（3(4)単位）
  - 精神看護学（4単位）
  - 看護の統合と実践（4単位）
  - 複数の教育内容を併せて教授する科目（5単位）
  - 臨地実習（23単位）
    - 看護の基礎実習Ⅰ　1単位　45時間
    - 看護の基礎実習Ⅱ　2単位　90時間
    - 看護の基礎実習Ⅲ　2単位　90時間
    - 暮らしを支える看護実習　2単位　90時間
      - 【地域・在宅看護論実習】
        病院から在宅療養へ移行する人々、在宅療養をしている人々への看護の実際を見学・体験する。
    - 健康危機状況の看護実習　2単位　90時間
    - 人生の最終段階の看護実習　2単位　90時間
    - 専門職連携実習　2単位　90時間
    - 高齢者の生活を支える看護実習　2単位　90時間
    - こどもの成長発達と健康を支える看護実習　2単位　90時間
    - 生命の育みを支える看護実習　2単位　90時間
    - 心の健康と生活を支える看護実習　2単位　90時間
    - 看護の統合実習　2単位　90時間

科目群：専門分野【地域・在宅看護論】

7年度	授業科目	西尾市の暮らし	担当教員	小笠原　順美　他	単位（時間数）	1(30)
第1学年					担当時間数	30

学習目的・目標	目的：西尾市の特性と暮らす人々の健康へのニーズを知り、西尾市で暮らす人々の健康課題を考える。 目標： 1. 西尾市の特性を説明できる。 2. 西尾市で暮らす人々の暮らしぶり・価値観・生活信条・信仰・望む暮らし・望む健康など大切にしていることを説明できる。 3. 西尾市の保健・医療・福祉施設の役割を説明できる。 4. 西尾市の特徴と人びとの健康への思い・願いから健康課題を考え看護を提案できる。

回数		学習内容	方法	場所	課題	担当
1	/	イントロダクション ・暮らしと看護	講義・GW	教室	関心があるテーマで調べて学びを提出(課題①)4回目終了後	小笠原
2	/	1. 西尾市の特性を知ろう ・西尾市の歴史、文化、自然環境、産業、人口構造について	講義	教室		小笠原 外部講師
3	/	2. 西尾市の歴史・文化を知ろう （西尾茶の歴史と文化・製茶工場の見学と抹茶の作法）	フィールドワーク	葵製茶	記録提出②	小笠原
4	/	3. 暮らしと健康 ・暮らしと健康 ・保健センターの役割 ・保健センターで聞いてみたいこと	講義・GW	教室	・保健センターの役割を調べる	小笠原
5	/	4. 市民の健康を守る西尾市保健センターの役割と活動 ・西尾市保健センターの施設見学 ・教室の見学 ・施設で働いている看護職の役割	フィールドワーク	保健センター	記録提出③	小笠原 水谷
6	/	5. 西尾市の暮らし・文化 ・人々の暮らし ・地域で暮らす人に聞いてみたいこと ・住職からの課題　死とは	講義・GW	教室		小笠原
7	/	6. 西尾市の暮らし・文化に触れる ・住職の法話	フィールドワーク	養寿寺	記録提出④	小笠原 外部講師
8	/	7. 佐久島の暮らしに触れる ・島民の語り ・島民の暮らしと健康ニーズ	フィールドワーク	佐久島弁天サロン	記録提出⑤	小笠原 外部講師
9	/	8. 佐久島診療所の役割と活動 ・佐久島診療場の施設見学 ・佐久島診療場で働く看護師の役割	フィールドワーク	佐久島開発総合センター佐久島診療所	記録提出⑥	小笠原 宮地

10	/	9. 暮らしを支える福祉の役割と活動 ・障害者支援施設ピカリコと西尾市総合福祉センターの役割	講義・GW	教室	施設の特徴・役割を調べる	小笠原
11	/	10. 西尾市の暮らしを支える福祉施設 ・西尾市総合福祉センター 施設見学 ・センターで働いている看護職の役割	フィールドワーク	総合福祉センター	記録提出⑦	小笠原
12	/	11. 身体に障害を持つ方の暮らし ・障害者支援施設ピカリコ 施設見学(磯貝施設長) ・施設で働いている看護師の役割(看護師)	フィールドワーク	ピカリコ	記録提出⑧	小笠原
13・14	/	12. グループワーク:西尾市の暮らし 「西尾市に暮らしの特徴と人々の健康への思い・願いから、健康課題と看護について考えたこと」をプレゼンテーション	GW	教室	グループ発表資料提出	小笠原
15	/	発表会:グループの学びをクラスで共有	GW	教室		小笠原

評価方法	課題とグループ発表で評価します。 課題・フィールドワークの記録 80点(各回10点) グループ発表成果物 10点 グループ発表 5点 グループ発表態度 5点
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門分野 『地域・在宅看護論の基盤』
参考書	講談社　　『ナースがみる病気』 西尾市制70周年記念市勢要覧(未来に心おどるまちにしお) 西尾くるりん観光ガイドブック 健康にしお21(第2次) 広報にしお 西尾市の統計
履修上の留意点	提出物は、期限を厳守して提出してください。期限を過ぎた場合、評価の対象となりません 記録の提出は、フィールドワーク翌日です。 フィールドワークは現地集合現地解散です。各自ルートを調べて主体的に行動しましょう。 午後から授業が予定されている場合もあります。授業に遅れないようにしましょう。

科目群:専門分野【地域・在宅看護論】

7年度	授業科目	暮らしを支える看護Ⅰ	担当教員	村松 奈緒美	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15+研修1

学習目的・目標	目的: 地域での暮らしと必要な看護について考える。 目標: 1. 健康について課題を有しながら生活する人々の暮らしについて考える。 2. 健康について課題を有しながら暮らす人々を支える支援について考える。 3. 暮らしに必要な看護を考える。

	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	／	1. 暮らしとは	講義	教室	
2	／	2. 暮らしを支える看護とは ・各訪問看護ステーション説明	講義 GW	教室	訪問看護ステーションで学びたい事をまとめる
3	／	3. 看護の対象者が、どの様な場でどのように生活しているか知ろう ・訪問看護師と一緒にお宅訪問してみよう	見学	訪問看護ステーション	ステーションでの学びを個人でまとめる
4	／				
5	／	4. 暮らしを支える看護についてまとめてみよう	GW	教室	個々の学びから、各ステーション毎に学びをまとめる
6	／				
7	／	5. 暮らしに必要な看護について考えてみよう	発表	教室	講義、見学、発表の内容をレポートにまとめる
8 (1h研修)	／				

評価方法	訪問看護ステーションの個人の学び30点、発表30点、最終レポート40点
教科書	医学書院 『地域・在宅看護の基盤』
参考書	
履修上の留意点	3.4回目は、夏休み期間で指定された日に訪問看護ステーションに個人で行き、訪問看護師に同行させて頂きながら行います。

科目群:専門分野【地域・在宅看護論】

8年度	授業科目	暮らしを支える看護Ⅱ	担当教員	今井 清美　他	単位(時間数)	1(15)
第2学年					担当時間数	15

【友原たき子】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験31年
実務経験を活かした実践的な授業内容	回復期リハビリテーション病棟を有する病院勤務(管理者)の経験に基づいて、 地域包括ケアシステムや介護保険について制度や必要性を学ぶ。
【岩瀬美穂】 授業科目に関連した実務経験の内容	保健師29年
実務経験を活かした実践的な授業内容	行政の保健師としての経験を活かした講義により、地域包括支援センターの活動の実際について学ぶ。
【水谷文美乃】 授業科目に関連した実務経験の内容	保健師29年
実務経験を活かした実践的な授業内容	保健センターの保健師としての経験を活かした講義により、保健センターで行われている、 成人、母子に対する活動の実際について学ぶ。
【今井清美】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験18年、認知症看護認定看護師15年
実務経験を活かした実践的な授業内容	看護師としての経験を活かした講義により、地域包括ケアシステムにおける看護の役割について学ぶ。

学習目的・目標	目的: 地域での暮らしと必要な看護について考える。 目標: 1. 地域包括ケアシステムを理解することができる。 2. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割を考えることができる。

回数		学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	地域包括ケアシステムとは	講義	教室	友原	
2	／	地域包括支援センターの活動の実際	講義	教室	岩瀬	
3	／	保健センターの活動の実際　成人	講義	教室	水谷	
4	／	保健センターの活動の実際　母子	講義	教室	水谷	
5	／	地域包括支援センター連絡会議参加	聴講	教室	今井	
6～7	／	地域包括支援センターの活動への参加	フィールドワーク	地域包括支援センター	今井	レポート課題提示
8	／	地域包括ケアシステムにおける看護の役割を考える （45分）	講義	教室	今井	レポート課題提示

評価方法	レポート課題i評価 6・7回の地域保活支援センターの活動へ参加しての学びのレポート:20点 講義、活動への参加からの最終レポート:80点
教科書	①医学書院　地域・在宅看護の基盤 ②医学書院　地域・在宅看護の実践 ③メディックメディア 『公衆衛生がみえる』
参考書	『国民衛生の動向』
履修上の留意点	6・7回目は、夏休みの期間で、指定された日に地域包括支援センターに個人で行き、 地域包括支援センターの活動に参加させていただきます。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【地域・在宅看護論】

8年度	授業科目	暮らしを支える看護方法Ⅰ	担当教員	村松　奈緒美	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	30

学習目的・目標	目的：　地域・在宅看護の対象、制度、看護技術を学ぶ。 目標：　1. 地域・在宅看護の対象について理解する。 2. 地域で健康について課題を有しながら暮らす人々の気持ちや必要な看護を考える。 3. 地域・在宅看護にかかわる制度について理解す 4. 福祉用具につい理解できる。 5. 対象者の希望する暮らしを支える看護技術について学ぶ。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	1. 地域・在宅看護の対象	講義	教室	村松	地域・在宅看護に必要な指標
2	／	2. 地域で暮らす療養者や、家族の生活・思いについて考える（ALS療養者と妻の話）	講義	実習室	村松 外部講師	ALSとは
3	／	3. 地域・在宅看護とは何か	GW	教室	村松	
4	／	4. 指標や地域の特徴から考えた地域・在宅看護の必要性	講義	教室	村松	
5	／	5. 地域での暮らしを支える看護	講義	教室	村松	
6	／	6. 地域における家族への看護	講義 GW	教室	村松	
7	／	7. 介護保険制度	講義	教室	村松	
8 9	／	8.「なごや福祉用具プラザ」施設見学	講義 体験学習	なごや福祉用具プラザ	村松 外部講師	
10	／	9. 訪問看護制度	講義 GW	教室	村松	
11 12	／	10. 在宅における清潔援助の方法を考える グループワーク	校内実習	実習室	村松	
13 14	／	11.在宅における清潔援助の方法を考える 発表会	校内実習	実習室	村松	
15	／	試験、授業のまとめ		教室	村松	

評価方法	試験は45分で実施します。 配点は筆記試験70点、課題30点で評価します。
教科書	①医学書院 『地域・在宅看護の基盤』 地域・在宅看護論1 ②医学書院 『地域・在宅看護の実践』 地域・在宅看護論2
参考書	
履修上の留意点	2回目の講義は外部講師と共に行います。 8、9回目の講義はなごや福祉用具プラザで行います。

科目群：専門分野【地域・在宅看護論】

8年度	授業科目	暮らしを支える看護方法Ⅱ	担当教員	村松　奈緒美 及川　高志 杉浦　裕美 中嶋　順子	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	30

【及川　高志】 授業科目に関連した実務経験の内容	作業療法士臨床経験16年（訪問看護ステーション勤務経験13年）
実務経験を活かした実践的な授業内容	訪問看護ステーション勤務の経験に基づいて、在宅で生活する訪問看護を必要とする小児の多職種連携や制度確立の必要性について、具体的な事例を講義に取り入れている。
【杉浦　裕美】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験20年、皮膚・排泄ケア認定看護師10年
実務経験を活かした実践的な授業内容	皮膚・排泄ケア認定看護師の経験に基づいて、在宅で生活し、排泄障害・褥瘡のある療養者の看護援助を学ぶ。
【中嶋　順子】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験23年（訪問看護ステーション勤務経験6年） エンドオブライフケア協会認定ファシリテーター7年
実務経験を活かした実践的な授業内容	訪問看護ステーション勤務やエンドオブライフケア協会認定ファシリテーターの経験に基づいて、エンドオブライフケアについて、具体的な事例を講義に取り入れている。

学習目的・目標	目的：　地域・在宅看護における多職種連携と暮らしを支える看護技術について学ぶ。 目標：　1. 地域・在宅看護実践の場について理解する。 2. 地域・在宅看護における多職種連携について理解する。 3. 暮らしを支える看護技術について理解する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	1. 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	講義	教室	村松	
2	／	2. 地域・在宅看護実践の場	講義	教室	村松	
3	／	3. 障がいとともに豊かに生きる （障がいを持った方の話）	講義	教室	村松 外部講師	レポート
4	／	4. 地域・在宅看護における多職種連携	講義	教室	村松	
5	／	5. 地域・在宅看護マネジメント	講義	教室	村松	
6	／	6. 在宅看護を必要とする小児 ・訪問看護ステーション作業療法士、訪問看護師講義	講義	教室	及川	レポート
7	／	・障がい児の母講義	講義	教室	村松 外部講師	レポート
8	／	7. 食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術	講義	教室	村松	
9	／	8. 排泄に関する地域・在宅看護技術	講義	教室	村松	
10	／	9. 創傷管理に関する地域・在宅看護技術 ・皮膚・排泄認定看護師講義	講義	教室	杉浦	レポート
11	／	10. 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術	講義	教室	村松	
12 13	／	11. 在宅医療の生活と障害福祉サービス ・当事者、訪問看護師、障害者デイサービスセンター看護師講義	講義	実習室	村松 外部講師	レポート
14	／	12. 終末期の看護（エンドオブライフケアとは）	講義	教室	中嶋	レポート
15	／	試験、授業のまとめ		教室	村松	

評価方法	試験は45分で実施します。 配点は筆記試験70点、課題30点で評価します。
教科書	教科書は村松が①・②、10回目杉浦講師が②を使用します。 ①医学書院 『地域・在宅看護の基盤』 地域・在宅看護論1 ②医学書院 『地域・在宅看護の実践』 地域・在宅看護論2
参考書	
履修上の留意点	6回目の講義は及川講師が行います。 10回目の講義は杉浦講師が行います。 14回目の講義は中嶋講師が行います。 3、7、12・13回目の講義は外部講師と共に行います。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【地域・在宅看護論】

8年度	授業科目	暮らしを支える看護方法Ⅲ	担当教員	村松　奈緒美	単位（時間数）	1（15）
第2学年					担当時間数	15+研修1

学習目的・目標	目的：　地域・在宅看護における看護の展開方法を学ぶ。 目標：　1. 地域・在宅看護における看護過程の特徴を理解する。 2. 地域・在宅における看護過程の展開を理解する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	／	1. 地域・在宅看護過程とは	講義	教室	授業進度にあわせ、課題を提出する
2	／	2. 地域包括ケア病棟における看護過程の展開を理解する	講義	教室	
3	／	3-1. 訪問看護での看護過程を理解する 初回訪問前の情報収集	講義	教室	
4	／	3-2. 訪問看護での看護過程を理解する 訪問看護におけるアセスメントの仕方	講義 GW	教室	
5	／	3-3. 訪問看護での看護過程を理解する アセスメントから看護問題を明確化する	講義 GW	教室	
6	／	3-4. 訪問看護での看護過程を理解する 看護計画立案の仕方	講義 GW	教室	
7	／	3-5. 訪問看護での看護過程を理解する 実践可能な看護計画を立案する	GW	教室	グループワークの結果を提出する
8 （1h研修）	／	発表	演習	在宅看護実習室Ⅱ	今までの課題を整理し提出する

評価方法	課題とGW資料で評価します。
教科書	①医学書院『地域・在宅看護の基盤』 地域・在宅看護論1 ②医学書院『地域・在宅看護の実践』 地域・在宅看護論2 ③メディックメディア 『病気がみえるvol.7脳・神経』
参考書	「脳梗塞」の事例で行ないます。各自で参考資料となるものを持参して授業に臨んでください。
履修上の留意点	

（3） 専門分野【成人看護学】

〖ねらいと構成〗

成人看護学は、青年期から壮年期、向老期にある人を対象とする。成人の各健康段階における対象の特徴を理解するとともに、健康問題に応じた必要な看護を学習する。成人期にある対象の経過・健康レベルに合わせた看護実践を通して、成人の健康支援のアプローチを学習する。

- 専門分野（66単位）
  - 基礎看護学 11単位
  - 地域・在宅看護論 6単位
  - 成人看護学 4(6)単位
    - 成人の健康を支える看護方法Ⅰ 1単位 30時間 ― 健康危機状況にある対象の看護
    - 成人の健康を支える看護方法Ⅱ 1単位 30時間 ― セルフケア再獲得を目指す対象の看護
    - 成人の健康を支える看護方法Ⅲ 1単位 30時間 ― セルフマネジメント支援を必要としている対象への看護
    - 成人の健康を支える看護方法Ⅳ 1単位 30時間 ― 人生の最終段階にある対象の看護
  - 老年看護学 3(4)単位
  - 小児看護学 3(4)単位
  - 母性看護学 3(4)単位
  - 精神看護学 4単位
  - 看護の統合と実践 4単位
  - 複数の教育内容を併せて教授する科目 5単位
  - 臨地実習 23単位
    - 看護の基礎実習Ⅰ 1単位 45時間
    - 看護の基礎実習Ⅱ 2単位 90時間
    - 看護の基礎実習Ⅲ 2単位 90時間
    - 暮らしを支える看護実習 2単位 90時間
    - 健康危機状況の看護実習 2単位 90時間 ― 【成人・老年看護学実習】健康危機状況にある対象の看護を実践する
    - 人生の最終段階の看護実習 2単位 90時間 ― 【成人・老年看護学実習】人生の最終段階にある対象の看護を実践する
    - 専門職連携実習 2単位 90時間 ― 【成人・老年看護学実習】回復期にある対象へ多職種と連携・協働し看護を実践する
    - 高齢者の生活を支える看護実習 2単位 90時間
    - こどもの成長発達と健康を支える看護実習 2単位 90時間
    - 生命の育みを支える看護実習 2単位 90時間
    - 心の健康と生活を支える看護実習 2単位 90時間
    - 看護の統合実習 2単位 90時間

科目群:専門分野【成人看護学】

8年度	授業科目	成人の健康を支える看護方法Ⅰ	担当教員	近藤　ゆかり 石川　千佳 長谷部　純子 糟谷　麻梨美 加藤　美佑紀 村田　悟生	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30

【近藤ゆかり】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験6年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務(外科病棟)での臨床経験に基づいた看護の講義により、健康危機状況にある対象の特徴と看護援助を学ぶ。
【石川千佳】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験15年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務(外科病棟)での臨床経験に基づいた周術期にある患者の看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。
【長谷部純子】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験21年、皮膚・排泄ケア認定看護師5年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務(外科病棟)での臨床経験に基づいた人工肛門造設術を受けた患者の看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。
【糟谷麻梨美】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験23年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務(循環器病棟)での臨床経験に基づいた講義により、健康危機状況ある対象の看護援助を学ぶ。
【加藤美佑紀】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験8年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務での臨床経験に基づいた看護の講義により、健康危機状況ある対象の看護援助を学ぶ。
【村田悟生】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験15年、救急看護認定看護師経験3年
実務経験を活かした実践的な授業内容	臨床の看護師経験と救急認定看護師の勤務経験を活かした講義により、救急状態にある対象の看護の特徴を学ぶ。

学習目的・目標	目的:　健康危機状況にある対象の看護を学ぶ。 目標:　1. 健康危機状況にある対象の特徴を理解する。 2. 健康破綻による危機状況と危機にある人々への支援を理解する。 3. 手術を受ける患者の看護を理解する。 4. 集中治療を必要とする対象の特徴を理解する。 5. 集中治療を必要とする対象の看護を理解する。 6. 救急状態にある対象の看護の特徴を理解する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	1. 成人各期の特徴と健康問題	講義	教室	近藤	事前課題
2	/	2. 生命の危機状態 3. 急性期にある人が受ける医療 4. 健康破綻による危機状況と危機にある人々への支援(危機モデル)	講義	教室	近藤	
3	/	5. 胃癌で手術を受けた患者の看護 ・胃切除術後の食事指導	講義	教室	石川	
4	/	6. 乳癌で手術を受けた患者の看護	講義	教室	石川	
5	/	7. 直腸癌で人工肛門造設術を受けた患者の看護 ・人工肛門造設術後の排便の自己管理	講義	教室	長谷部	
6	/		校内実習	実習室	長谷部	

7	/	8. 集中治療（生命維持を優先とした治療）を必要とする対象の看護	講義	教室	糟谷	
8	/	9. 弁膜症で心不全の患者の看護（心不全の事例） ・疾患の理解	講義	教室	糟谷	
9	/	10. 弁膜症で心不全の患者の看護 ・検査と治療の意味	講義	教室	糟谷	
10	/	11. 弁膜症で心不全の患者の看護 ・アセスメントと看護	講義	教室	糟谷	
11	/	12. 不整脈の患者の看護 ・心電図とは　・不整脈の特徴と対応 ・心電図検査時の看護の実践	校内実習	実習室	加藤	
12	/	13. 救急状態にある対象の看護	講義	教室	村田	
13・14	/	14. 人工呼吸器を装着した患者の看護 ・気管内吸引法の実践　・体位ドレナージ	校内実習	実習室	加藤	
15	/	試験、授業のまとめ		教室	近藤	
評価方法		試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。 （配点は1.・2回目（近藤先生）の範囲が5分で15点、3・4回目（石川先生）の範囲が5分で15点、5・6回目（長谷部先生）の範囲が5分で15点、7～10回目（糟谷先生）の範囲が20分で30点、11・13・14回目（加藤先生）の範囲が10分で25点）				
教科書		使用する教科書は、1・2回目（近藤先生）は①⑦、3回目（石川先生）は③、4回目（石川先生）は④、5・6回目（長谷部先生）は③、7～10回目（糟谷先生）は②⑤、11・13・14回目（加藤先生）は⑤⑥、12回目（村田先生）は⑧を使用します。 ①医学書院　系統看護学講座　専門分野 『成人看護学総論』 成人看護学1 ②医学書院　系統看護学講座　別巻 『臨床外科看護総論』 ③医学書院　系統看護学講座　専門分野 『消化器』 成人看護学 5 ④医学書院　系統看護学講座　専門分野 『女性生殖器』 成人看護学 9 ⑤医学書院　系統看護学講座　専門分野 『循環器』 成人看護学 ⑥インターメディカ 『写真でわかる臨床看護技術②』 ⑦メディックメディア『看護がみえるvol.5　対象の理解Ⅰ』 ⑧医学書院　系統看護学講座　別巻『救急看護学』				
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【成人看護学】

8年度	授業科目	成人の健康を支える看護方法Ⅱ	担当教員	深谷　英子 柘植　恭子 渡辺　佑斗 二村　あゆみ	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	30

【深谷英子】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験8年
実務経験を活かした実践的な授業内容	整形外科病棟での経験に基づき、具体的場面を用いた講義を行い、セルフケア再獲得についての看護を学ぶ。
【二村あゆみ】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験20年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（整形外科病棟）での経験に基づいた講義により、セルフケア再獲得にある対象の特徴とセルフケア再獲得を支援する看護援助を学ぶ。
【柘植恭子】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験17年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（内科病棟）での経験に基づいた講義により、セルフケア再獲得にある対象の特徴とセルフケア再獲得を支援する看護援助を学ぶ。
【渡辺佑斗】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験14年、 摂食・嚥下障害看護認定看護師3年
実務経験を活かした実践的な授業内容	摂食・嚥下障害看護認定看護師としての経験に基づいて、麻痺・意識障害のある患者の看護援助の具体的な方法を講義・演習に取り入れている。

学習目的・目標	目的：　セルフケア再獲得を目指す対象の看護を学ぶ。 目標：　1. 障害がある人とリハビリテーションを理解する。 2. 障害がある人の生活を支援する看護援助を理解する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	1. 障害がある人とリハビリテーション 2. 障害がある人の生活を支援する看護援助 3. 運動器疾患を持つ患者の看護 ・看護の役割 ・援助のためのおもな知識と技術	講義	教室	深谷	
2	／	4. 骨折とは、転位、骨折治癒 5. 保存療法を受ける患者の看護	講義	教室	二村	
3	／	6. 大腿骨頸部骨折の患者の看護 ・手術を受ける患者の看護	講義	教室	二村	
4	／	7. 脊髄損傷患者の看護 ・急性期～慢性期	講義	教室	二村	
5	／	8. 関節リウマチ患者の看護	講義	教室	二村	
6	／	9. 疾患をもつ患者の経過と看護	講義	教室	柘植	
7	／	10. 脳血管障害の患者の看護 ・意識障害のある患者の看護	講義	教室	柘植	
8	／	11. 脳血管障害の患者の看護 ・頭蓋内圧亢進、呼吸障害のある患者の看護	講義	教室	柘植	
9	／	12. 脳血管障害の患者の看護 ・運動麻痺、感覚障害のある患者の看護	講義	教室	柘植	
10	／	13. 脳血管障害の患者の看護 ・高次脳機能障害のある患者の看護	講義	教室	柘植	

11	／	14. くも膜下出血の患者の看護① ・手術を受ける患者の看護	講義	教室	柘植	
12	／	15. くも膜下出血の患者の看護② ・手術を受ける患者の看護	講義	教室	柘植	
13 14	／	16. 脳血管障害の患者の看護 ・麻痺・意識障害のある患者の嚥下体操、口腔ケア	校内実習	実習室	渡辺	
15	／	試験、授業のまとめ		教室	柘植	

評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施します。 配点は2～5回（二村先生）の範囲が15分で40点、6～12回（柘植先生）の範囲が20分で45点、13・14回（渡辺先生）の範囲が10分で15点です。
教科書	教科書は、1回目（深谷先生）①、2～5回目（二村先生）③、6～12回目（柘植先生）①②、13・14回（渡辺先生）②を使用します。 ①医学書院　系統看護学講座 『成人看護学総論』 成人看護学1 ②医学書院　系統看護学講座 『脳・神経』 成人看護学7 ③医学書院　系統看護学講座 『運動器』　成人看護学10
参考書	
履修上の留意点	

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【成人看護学】

8年度	授業科目	成人の健康を支える看護方法Ⅲ	担当教員	中村　睦美 水野　千恵 齋藤　恵	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	30

【中村睦美】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験8年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（内科病棟）での経験に基づいた講義により、セルフマネジメント支援を必要としている対象の特徴と支援を必要としている対象の援助方法を学ぶ。
【齋藤恵】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験27年、　糖尿病療養指導士経験25年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（内科病棟）での経験に基づいた講義により、セルフマネジメント支援を必要としている対象の特徴と支援を必要としている対象の援助方法を学ぶ。
学習目的・目標	目的：　セルフマネジメント支援を必要としている対象の看護を学ぶ。 目標：　1. 慢性病とともに生きる人を理解する。 2. 慢性病とともに生きるとはどういうことなのか、その特徴を理解をする。 3. 慢性病とともに生きる人を支えるための援助方法を理解する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	1. 慢性病と慢性病をもつ人の特徴 2. 慢性病とともに生きること	講義	教室	中村 水野	
2	／	3. セルフケアおよびセルフマネジメントへの支援 ・指導方法（食事指導の実際に向けて）	講義	教室	中村 水野	
3	／	4. 腎臓と腎不全に関する知識 ・症状と病態・検査・診断・治療	講義	教室	中村 水野	
4	／	・CKD患者の食事管理	講義	教室	中村 水野	
5	／	・透析とセルフケア 透析の原理と条件・透析と日常生活について	講義	教室	中村 水野	
6	／	5. 慢性腎臓病(CKD)患者の看護計画 ・血液透析患者の看護計画	講義	教室	中村 水野	
7	／	6. 腎不全のクライアントのセルフマネジメント事例	講義	教室	中村 水野	
8	／	7. 糖尿病に関する知識 ・定義と診断基準・検査	講義	教室	齋藤	
9	／	・糖尿病患者の治療(食事療法・運動療法・薬物療法)	講義	教室	齋藤	
10	／	8. 糖尿病患者の看護 ・ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント ・看護目標・看護活動	講義	教室	齋藤	
11	／	9. 糖尿病をもつクライアントのセルフマネジメント事例	講義	教室	齋藤	
12	／	10. パンフレット・ポスターのつくり方	講義	教室	齋藤	
13	／	11. 糖尿病患者の看護 ・パンフレット指導の実際（食事指導）	講義 校内実習	実習室	中村 水野	事前課題 事後課題
14	／	12. 血糖自己測定実施への援助(学内実習)	講義 校内実習	実習室	中村 水野	事前課題 事後課題
15	／	試験、授業のまとめ		教室	中村 水野	

評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施します。配点は1～7、11、12回（中村先生・水野先生）の範囲が30分70点、8～12回（齋藤先生）の範囲が15分で30点です。
教科書	教科書は、1・2回目（中村先生・水野先生）は①、3～7回目（中村先生・水野先生）は①③、8～12回目（齋藤先生）は①②、13回目（中村先生・水野先生）は①②、14回目（中村先生・水野先生）は①②④を使用します。 ①医学書院　系統看護学講座 「成人看護学総論」 成人看護学1 ②医学書院　系統看護学講座 『内分泌・代謝』 成人看護学6 ③医学書院　系統看護学講座 『腎・泌尿器』 成人看護学8 ④医学書院　根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　第3版
参考書	
履修上の留意点	課題の提出は、指定日・時間を厳守する。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【成人看護学】

8年度	授業科目	成人の健康を支える看護方法Ⅳ	担当教員	石川　暁美 山中　明子	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	30

【石川暁美】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経17年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（内科病棟）での経験に基づいた講義により、人生の最終段階にある対象の特徴と支援を必要としている対象の援助方法を学ぶ。
【山中明子】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験24年、 がん化学療法看護認定看護師経験6年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（内科病棟）での経験に基づいた講義により、人生の最終段階にある対象の特徴と支援を必要としている対象の援助方法を学ぶ。

学習目的・目標	目的：　人生の最終段階にある対象の看護を学ぶ。 目標：　1. 人生の最終段階にある対象の全人的苦痛を理解する。 2. 人生の最終段階にある対象の苦痛緩和の看護を考え実践する。 3. 放射線療法と化学療法時の看護を理解する。 4. 血液・造血器疾患の患者の看護を理解する。 5. 薬剤・輸血の管理について実践できる。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	【導入】 ・人生の最終段階とは 【膵臓がん患者Dさんの事例学習】	講義	教室	石川	事前課題
2	／	1-1. 膵臓癌患者の看護 ・病態関連図の作成 ・緩和グループで病態関連図の作成	講義	教室	石川	課題
3	／	1-2. 膵臓癌患者の看護 ・「特派員」で全体関連図を修正 ・ゴードンのアセスメントの説明	講義	教室	石川	課題
4	／	1-3. 膵臓癌患者の看護 ・ゴードンの機能的健康パターンによるアセスメント（パターン1～4）	講義	教室	石川	課題
5	／	1-4. 膵臓癌患者の看護 ・ゴードンの機能的健康パターンによるアセスメント（パターン5～7）	講義	教室	石川	課題
6	／	1-5. 膵臓癌患者の看護 ・ゴードンの機能的健康パターンによるアセスメント（パターン8～11） ・緩和ケアグループで看護問題の抽出、取り組む課題の決定	講義	教室	石川	課題
7	／	1-6. 膵臓癌患者の看護 ・苦痛緩和に対するケア（練習）	校内実習	実習室	石川	課題
8	／	1-7. 膵臓癌患者の看護 ・苦痛緩和に対するケア（発表）	校内実習	実習室	石川	
9	／	2. 放射線治療と看護、化学療法と看護	講義	教室	石川	
10	／	3. 地域で暮らしながら治療を継続する人を支える看護 【認定看護師】	講義	教室	山中	
11	／	4. 血液・造血器疾患の患者の看護 ・鉄欠乏性貧血の患者の看護 ・再生不良生貧血の患者の看護	講義	教室	石川	
12	／	5. 血液・造血器疾患の患者の看護 ・急性骨髄性白血病の患者の看護	講義	教室	石川	
13・14	／	6. 薬剤・輸血の管理の実践 ・血液製剤、輸血	校内実習	実習室	石川	
15	／	試験45分、授業のまとめ			石川	

評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。
教科書	教科書は、1～9回目（石川先生）①③④、11～12回目（石川先生）②、13・14回目（石川先生）②⑤を使用します。 ①医学書院　系統看護学講座 『消化器』 成人看護学5 ②医学書院　系統看護学講座 『血液・造血器』 成人看護学4 ③ヌーベルヒロカワ 『緩和・ターミナルケア看護論』 ④メディックメディア 『病気がみえるvol. 1　消化器』 ⑤医学書院 『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』
参考書	
履修上の留意点	課題の提出は、指定日・時間を厳守する。

※実務経験は令和7年4月1日現在

（3） 専門分野【老年看護学】

〖ねらいと構成〗

老年看護学では、加齢による心身の変化と、高齢者を取り巻く環境について体験を通して理解を深める。また、高齢者に対する健康の維持増進・健康管理・日常生活の援助方法について学び、高齢者のその人らしい生活を支える為の、知識・技術・態度を習得することをねらいとする。

- 専門分野 66単位
  - 基礎看護学 11単位
  - 地域・在宅看護論 6単位
  - 成人看護学 4(6)単位
  - 老年看護学 3(4)単位
    - 高齢者の生活と看護の基礎 1単位 15時間
      - 高齢者を取り巻く社会環境 生活とケアシステム 加齢変化と生活への影響
    - 高齢者の生活と看護方法Ⅰ 1単位 30時間
      - 高齢者の生活理解 日常生活の援助方法
    - 高齢者の生活と看護方法Ⅱ 1単位 30時間
      - 高齢者の健康障害の特徴 治療・療養の場における看護
  - 小児看護学 3(4)単位
  - 母性看護学 3(4)単位
  - 精神看護学 4単位
  - 看護の統合と実践 4単位
  - 複数の教育内容を併せて教授する科目 5単位
  - 臨地実習 23単位
    - 看護の基礎実習Ⅰ 1単位 45時間
    - 看護の基礎実習Ⅱ 2単位 90時間
    - 看護の基礎実習Ⅲ 2単位 90時間
    - 暮らしを支える看護実習 2単位 90時間
    - 健康危機状況の看護実習 2単位 90時間
      - 【成人・老年看護学実習】 健康危機状況にある対象の看護を実践する
    - 人生の最終段階の看護実習 2単位 90時間
      - 人生の最終段階にある対象の看護を実践する
    - 専門職連携実習 2単位 90時間
      - 回復期にある対象へ多職種と連携・協働し看護を実践する
    - 高齢者の生活を支える看護実習 2単位 90時間
      - 【老年看護学実習】 施設で生活する高齢者の看護を実践する
    - こどもの成長発達と健康を支える看護実習 2単位 90時間
    - 生命の育みを支える看護実習 2単位 90時間
    - 心の健康と生活を支える看護実習 2単位 90時間
    - 看護の統合実習 2単位 90時間

科目群：専門分野【老年看護学】

7年度	授業科目	高齢者の生活と看護の基礎	担当教員	加藤　美佑紀	単位（時間数）	1(15)
第1学年					担当時間数	15

授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験8年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務での看護の経験に基づいた講義により、老年期にある対象の看護を学ぶ。
学習目的・目標	目的：　高齢者の特徴を理解し、生活を支える看護の考え方を学ぶ。 目標：　1. 高齢者の身体的、精神的、社会的特徴を理解できる。 2. 加齢による心身の変化が高齢者の生活に与える影響を理解できる。 3. 高齢者看護の基本的な考え方を理解できる。

回数	月日		方法	場所	課題
1	/	1. 高齢者の理解 ・ライフサイクルからみた高齢者 ・高齢者の統計学的特徴 ・老年期の特徴と高齢者の理解 ・高齢者にとっての健康、QOL	講義	教室	事前課題 事後課題
2	/	2. 高齢者をとりまく社会 ・高齢者がいる家族 ・高齢者を支える制度、社会資源	講義	教室	事前課題
3	/	3. 加齢に伴う変化と生活 ・身体・精神の変化 ・認知機能の変化	発表	実習室	事前課題
4	/	4. 高齢者看護の基本、倫理的課題 1）高齢者看護の基本とアセスメント視点 2）権利擁護、高齢者虐待、身体拘束 3）倫理的課題 （建設的討論法）	講義 GW	教室	事前課題
5	/	5. 高齢者の健康づくり、介護予防 ・運動機能の向上 ・閉じこもり、認知症、うつの予防	講義	教室	
6	/	6-1. 高齢者の生活と看護を考えよう 「老年期にある人々の生活を理解する」	GW	教室 図書室 視聴覚室	
7	/	6-2.「老年期にある人々の生活を理解する」 発表会	発表	教室	授業後 レポート提出
8	/	試験		教室	

評価方法	試験は45分で実施します。配点は筆記試験75点、課題25点で評価します。
教科書	①医学書院　系統看護学講座 『老年看護学』 ②メディックメディア　看護が見える Vol. 5 『対象の理解Ⅰ』
参考書	
履修上の留意点	

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【老年看護学】

8年度	授業科目	高齢者の生活と看護方法Ⅰ	担当教員	今井　清美	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	30

授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験18年、認知症看護認定看護師経験15年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務、認知症看護認定看護師としての看護経験に基づいた講義により、老年期にある対象の看護を学ぶ。

学習目的・目標	目的：　疾患や障害をもつ高齢者の看護を学ぶ。 目標：1. 高齢者に多い健康障害が生活に及ぼす影響を理解する。 2. 高齢者に多い健康障害の特徴とその看護の視点を理解する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	／	1. 入院治療を受ける高齢者の看護	講義	教室	
2	／	2. 看護過程の展開 入院中の看護　～脳梗塞の事例～　＜3－2＞の書き方と理解	講義	教室	
3	／	＜3－3＞　パターン1～3の書き方と理解	講義	教室	
4	／	＜3－3＞　パターン4～11の書き方と理解　まとめ	講義	教室	看護過程課題提示
5	／	3. 肺炎の症状と看護	講義 小テスト	教室	
6	／	4. 薬物療法を受ける高齢者の看護 5. 高血圧・心不全の特徴	講義	教室	
7	／	6. 心不全の症状と看護	講義 小テスト	教室	
8	／	7. パーキンソン病の症状と看護	講義	教室	
9	／	8. リハビリテーションを受ける高齢者の看護 9. 視力障害・聴力障害をもつ高齢者の看護	講義 小テスト	教室	
10	／	10. 認知症のある高齢者の看護 病態の理解、中核症状に対するケア	講義	教室	
11	／	11. BPSDに対するケア、薬物療法 食事・帰宅願望・排泄ケア、レクリエーション	講義 小テスト	教室	
12	／	12. 看護過程の展開 介護老人保健施設での看護　～脳梗塞の事例～	講義	教室	
13	／	＜1＞基本情報、＜2＞疾患関連情報の書き方と理解	講義	教室	
14	／	＜3＞生活行動情報、＜4＞看護援助の書き方と理解	講義	教室	看護過程課題提示
15	／	試験、授業のまとめ		教室	

評価方法	試験は45分で実施します。配点は筆記試験60点、課題20点、小テスト20点です。
教科書	①医学書院　系統看護学講座　『老年看護学』 ②医学書院　系統看護学講座　『老年看護　病態・疾患論』 ③医学書院　『生活機能からみた老年看護過程』
参考書	
履修上の留意点	

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【老年看護学】

8年度	授業科目	高齢者の生活と看護方法Ⅱ	担当教員	今井　清美	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	30

授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験18年、認知症看護認定看護師経験15年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務、認知症看護認定看護師としての看護経験に基づいた講義により、老年期にある対象の看護を学ぶ。

学習目的・目標	目的：高齢者を生活者としてとらえ、高齢者の日常生活の援助方法について学ぶ。 目標：1. 生活の特徴をアセスメントし、セルフケア支援の方法を理解する。 2. 生活機能の観点からアセスメントし、看護の方法を理解する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	/	1-1. 食事・食生活 ・高齢者の食生活、必要な栄養とエネルギー	講義	教室	
2	/	1-2. 食事・食生活 ・セルフケア支援のポイント、口腔の清潔、義歯の取り扱い	講義	教室	
3	/	2-1. 排泄 ・加齢による排泄の変化、排泄動作に必要な主な生活機能	講義	教室	
4・5	/	2-2. 排泄 ・セルフケア支援のポイント、陰部洗浄とおむつ交換 （グループで手順書作成、実施）	GW 校内実習	実習室	
6	/	2-3. 排泄 ・セルフケア支援のポイント、陰部洗浄とおむつ交換 （グループ発表、リフレクション）	GW 校内実習	実習室	レポート課題提示
7	/	3-1. 清潔 ・セルフエアの支援方法、スキンケア	講義	教室	
8	/	3-2. 清潔 ・感染のリスクアセスメント、感染症ケア	講義	教室	
9	/	4-1. 活動と休息 ・高齢者の活動と休息の特徴、廃用症候群	講義	教室	
10	/	4-2. 活動と休息 ・廃用症候群予防のためのアセスメント、セロ測定 ・活動と休息への支援　ROM	講義	実習室	
11	/	5. コミュニケーション　困難にする要因、看護とコミュニケーション技術 6. 社会参加	講義	教室	
12	/	7. 保健医療福祉施設・居住施設における看護	講義	教室	
13・14	/	8. 特別養護老人ホーム せんねん村　施設見学 老人福祉施設の役割	フィールドワーク		レポート課題提示
15	/	試験、授業のまとめ			

評価方法	試験は45分で実施します。配点は筆記試験80点、課題20点で評価します。
教科書	①医学書院　系統看護学講座 『老年看護学』 ②医学書院　系統看護学講座 『老年看護　病態・疾患論』 ③医学書院 『生活機能からみた老年看護過程』
参考書	
履修上の留意点	

※実務経験は令和7年4月1日現在

（3） 専門分野【小児看護学】

〖ねらいと構成〗

この科目では、こどもの特徴や健康なこどもの成長・発達、こどもを取り巻く社会・家庭環境の現状と動向を学び、こどもの健康増進のために必要な看護師の役割を理解する。また、こどもは家族との相互作用の中で人間関係を築き、生活習慣を確立し、社会性を身につけていく存在である。こどもだけでなく、こどもを中心とする家族も看護の対象とし、さらに、家族の特徴および現代社会の環境をより広い視野からとらえ小児看護を学ぶ。

また、こどもの権利と健康を守り、こどもの安全で安楽なケアを提供するために、科学的根拠に基づいたこどもの看護技術を学ぶ。

- 専門分野 66単位
  - 基礎看護学 11単位
  - 地域・在宅看護論 6単位
  - 成人看護学 4(6)単位
  - 老年看護学 3(4)単位
  - 小児看護学 3(4)単位
    - こどもの成長発達と健康 1単位 15時間
      - こどもを取り巻く社会/子どもの権利/学校保健
      - こどもの成長発達/健康障害を持つ各期のこどもの特徴
    - こどもの成長発達を支える看護方法Ⅰ 1単位 30時間
      - こどもの示す症状の特徴/こどもの看護技術
    - こどもの成長発達を支える看護方法Ⅱ 1単位 30時間
      - 健康障害を持つ家族とこどもの思考過程プロセス
  - 母性看護学 3(4)単位
  - 精神看護学 4単位
  - 看護の統合と実践 4単位
  - 複数の教育内容を併せて教授する科目 5単位
  - 臨地実習 23単位
    - 看護の基礎実習Ⅰ 1単位 45時間
    - 看護の基礎実習Ⅱ 2単位 90時間
    - 看護の基礎実習Ⅲ 2単位 90時間
    - 暮らしを支える看護実習 2単位 90時間
    - 健康危機状況の看護実習 2単位 90時間
    - 人生の最終段階の看護実習 2単位 90時間
    - 専門職連携実習 2単位 90時間
    - 高齢者の生活を支える看護実習 2単位 90時間
    - こどもの成長発達と健康を支える看護実習 2単位 90時間
      - 【小児看護学実習】こどもの成長発達を捉え、こどもと家族への看護を実践する。
    - 生命の育みを支える看護実習 2単位 90時間
    - 心の健康と生活を支える看護実習 2単位 90時間
    - 看護の統合実習 2単位 90時間

科目群：専門分野【小児看護学】

7年度	授業科目	こどもの成長発達と健康	担当教員	伴　ひろみ	単位（時間数）	1（15）
第1学年					担当時間数	15

授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験11年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務の看護の経験に基づいて、こどもを取り巻く環境や小児看護の考え方を講義・演習に取り入れている。
学習目的・目標	目的：小児看護の対象であるこどもとその家族について学ぶ。 目標：1. こどもの特徴について理解することができる。 2. こどもを取り巻く社会環境との関連について考えることができる。 3. こどもの健康と権利を守るための諸制度とその活用について理解することができる。 4. こどもが健康な生活を送るための養育・看護について理解することができる。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	／	1. 小児看護の対象と看護の特徴	講義	教室	事前課題
2	／	2. こどもを取り巻く社会 グループワーク	GW	教室	発表資料
3	／	3. 現代社会の特徴から、こどもへの影響を考える グループワーク・発表	講義	教室	
4	／	4. こどもと家族の諸統計	講義	教室	
5	／	5. こどもの事故と事故防止	講義	教室	事前課題
6	／	6. 児童福祉法・こどもの権利 7. こどもの倫理	講義	教室	事前課題
7	／	8. 健康障害がこどもとその家族に及ぼす影響	講義	教室	
8	／	試験	講義	教室	

評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は試験80点、課題点20点です。
教科書	①医学書院　系統看護学講座 『小児看護学概論 小児臨床看護総論』 小児看護学1 ②医学書院 『小児臨床看護各論』小児看護学2 ③メディックメディア 『看護が見えるvol.5　対象の理解Ⅰ』 ④メディックメディア 『公衆衛生がみえる』
参考書	
履修上の留意点	小児と成人の違いについて意識しながら学習しましょう。 学習したことを振り返りながら理解を深めていきましょう。 事前に課題を出します。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【小児看護学】

8年度	授業科目	こどもの成長発達を支える看護方法Ⅰ	担当教員	鈴木　陽子	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	30

授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験14年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（小児科病棟）での小児期にあるこどもの看護の経験に基づいて、こどもを取り巻く環境や小児看護の考え方を講義・演習に取り入れている。
学習目的・目標	目的：こどもとその家族の成長発達や、状況に合わせた看護について学ぶ。 目標：1. こどもの成長発達の特徴について理解する。 2. こどもがよく示す症状と看護について理解する。 3. 健康障がいを持つこどもと家族への看護について学ぶ。

回数	月日	学習内容	方法	場所	キーワード
1	／	1. こどもの看護プロジェクト	講義	教室	家族機能
2	／	2. こどもの成長と発達、評価	講義	教室	
3	／	3. 新生児期の成長発達の特徴	講義	教室	
4	／	4. 乳児期の成長発達の特徴	講義	教室	
5	／	5. 幼児期の成長発達の特徴	講義	教室	
6	／	6. 学童期・思春期の成長発達の特徴	講義	教室	
7	／	7. 小児看護の目標　外来看護の特徴と入院中の看護	講義	教室	
8	／	8. 症状を示すこどもの看護①	GW	教室	
9	／	症状を示すこどもの看護②	GW	教室	
10	／	9. 急性期・慢性期にあるこどもの特徴	講義	教室	
11	／	10. こどもの栄養	講義	教室	
12	／	11. こどもの薬物療法と看護	講義	教室	
13	／	12. 検査・処置を受けるこどもの看護	講義	教室	
14	／	13. 低出生体重児と家族への看護	GW	教室	
15	／	試験、授業のまとめ		教室	

評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は試験80点、課題点20点です。
教科書	①医学書院　系統看護学講座 『小児看護学概論 小児臨床看護総論』 小児看護学① ②医学書院　系統看護学講座 『小児臨床看護各論』 小児看護学② ③医学書院　根拠と事故防止からみた小児看護技術　第4版 ④医学書院　発達段階からみた小児看護過程　第4版
参考書	①講談社　鴨下・柳　澤監修 『こどもの病気の地図帳』 ②インターメディカ『写真でわかる小児看護技術アドバンス』
履修上の留意点	小児と成人の違いについて意識しながら学習しましょう。 すでに学習したことを振り返りながら学習しましょう。 事前に課題を出します。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【小児看護学】

8年度	授業科目	こどもの成長発達を支える看護方法Ⅱ	担当教員	鈴木　陽子	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	30

授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験14年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（小児科病棟）での小児期にあるこどもの看護の経験に基づいて、こどもを取り巻く環境や小児看護の考え方を講義・演習に取り入れている。
学習目的・目標	目的：健康障害をもつこどもとその家族を理解し、対象に応じた看護を学ぶ。 目標：1. 事例を通して健康障害をもつこどもとその家族に必要な看護援助が考えられる。 2. 健康障害をもつこどもとその家族の看護過程の展開方法を理解する。 3. こどもの成長発達の特徴を考えた看護技術の方法について理解する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	キーワード
1	／	1. こどもの看護過程の展開の特徴 ・事例の提示：２才　気管支喘息　急性期 ・4歳児の発達段階・形態的・機能的特徴 ・こどもを理解するために必要な情報	講義	教室	発達段階の特徴
2	／	2. 病態情報の整理 ・情報用紙から病態に必要な情報の意味を考える 3. 関連図に必要なキーワードの抽出	講義 GW	教室	事前課題 関連図
3	／	4. 全体像をとらえる ・グループで関連図を作成する	講義 GW	教室	
4	／	5. 関連図の共有 ・こどもとその家族の発達段階から分析する	GW	教室	事前課題 バイタルサイン
5	／	6. こどものアセスメント ゴードンの機能的健康パターン1～4	講義	教室	事前課題 ＜3－1＞
6	／	ゴードンの機能的健康パターン5～11	講義	教室	
7	／	7. こどものアセスメント ・バイタルサイン測定と気管支喘息の観察	講義	教室	事前課題 バイタルサイン
8	／	8. こどもの看護技術 ・輸液と酸素療法中の看護 ・環境と安全への配慮	講義 GW	教室	
9	／	9. こどもの観察の実際	校内実習	実習室	
10	／	10. アセスメント内容から全体関連図を完成させる	GW	教室	
11	／	11. 看護上の問題を明らかにする 12. 起こりうる問題の優先度を考える	GW	教室	看護計画
12	／	13. こどもへのプレパレーションの実際①	講義	教室	
13	／	14. こどもへのプレパレーションの実際②	GW	教室	
14	／	15. こどもの権利を尊重した観察の実施	校内実習	実習室	
15	／	16. まとめ　凝縮ポートフォリオ	講義	教室	

評価方法	評価は課題と小テストで評価します。配点は課題80点、小テスト20点です。
教科書	①医学書院　系統看護学講座 『小児看護学概論 小児臨床看護総論』 小児看護学① ②医学書院　系統看護学講座 『小児臨床看護各論』 小児看護学② ③医学書院　根拠と事故防止からみた小児看護技術　第4版 ④医学書院　発達段階からみた小児看護過程　第4版
参考書	①講談社　鴨下・柳　澤監修 『こどもの病気の地図帳』 ②インターメディカ『写真でわかる小児看護技術アドバンス』
履修上の留意点	小児と成人の違いについて意識しながら学習しましょう。 すでに学習したことを振り返りながら学習しましょう。 事前に課題を出します。

※実務経験は令和7年4月1日現在

（3） 専門分野【母性看護学】

〖ねらいと構成〗

母性看護学は、いのちが創造され、いのちを産み育む人々を支える看護である。

リプロダクティブヘルスと看護では、いのちを育む土台となるリプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）について学びます。母性看護は、妊娠・分娩・出産を通して「その人らしさ」、「母性や父性」、その人の経験する「新しい役割」「他者への愛着」「親と子の相互作用」に関心を寄せます。さらに人格形成に深く関わる「セクシュアリティ」「ジェンダー」を学習することで、人の本質や奥底にあるものを洞察する力を養います。

生命の育みを支える看護方法Ⅰ～Ⅱでは、親役割獲得を支える過程の看護として、妊娠・出産・育児期の特徴を学び看護方法を考える。具体的には、母体と胎児のつながり、妊婦・産婦・褥婦と新生児の特徴と生理的変化を理解して、妊産褥婦のセルフケア能力を高める援助方法、母乳保育への支援や育児指導に関する援助方法を学習する。

- 専門分野 66単位
  - 基礎看護学 11単位
  - 地域・在宅看護論 6単位
  - 成人看護学 4(6)単位
  - 老年看護学 3(4)単位
  - 小児看護学 3(4)単位
  - 母性看護学 3(4)単位
    - リプロダクティブヘルスと看護 1単位 15時間
      - 母性の特性／女性のライフサイクル各期の特徴／リプロダクティブヘルスの支援
    - 生命の育みを支える看護方法Ⅰ 1単位 30時間
      - 妊娠期の母体及び胎児の形態機能の特徴／分娩各期の看護／ 出生直後から新生児の形態機能の特徴と看護
    - 生命の育みを支える看護方法Ⅱ 1単位 30時間
      - 新生児の看護技術／産褥期の特徴と看護／母子を支える看護
  - 精神看護学 4単位
  - 看護の統合と実践 4単位
  - 複数の教育内容を併せて教授する科目 5単位
  - 臨地実習 23単位
    - 看護の基礎実習Ⅰ 1単位 45時間
    - 看護の基礎実習Ⅱ 2単位 90時間
    - 看護の基礎実習Ⅲ 2単位 90時間
    - 暮らしを支える看護実習 2単位 90時間
    - 健康危機状況の看護実習 2単位 90時間
    - 人生の最終段階の看護実習 2単位 90時間
    - 専門職連携実習 2単位 90時間
    - 高齢者の生活を支える看護実習 2単位 90時間
    - こどもの成長発達と健康を支える看護実習 2単位 90時間
    - 生命の育みを支える看護実習 2単位 90時間
      - 【母性看護学実習】 母親役割獲得過程にある対象への支援を考える
    - 心の健康と生活を支える看護実習 2単位 90時間
    - 看護の統合実習 2単位 90時間

科目群：専門分野【母性看護学】

7年度	授業科目	リプロダクティブヘルスと看護	担当教員	笹尾　みゆき 高須　初恵	単位（時間数）	1（15）
第1学年					担当時間数	15

【笹尾みゆき】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験12年、産婦人科病棟と外来での助産師臨床経験3年
実務経験を活かした実践的な授業内容	助産師として、妊・産・褥婦のケアを実践した経験に基づいて、具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。
【高須初恵】 授業科目に関連した実務経験の内容	助産師臨床経験27年と不妊症認定看護師10年
実務経験を活かした実践的な授業内容	助産師として、妊・産・褥婦のケアを実践した経験に基づいて、具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。

学習目的・目標	目的：リプロダクティブヘルスライツと母性看護の役割と意義を考える。 目標：1. 母性看護における看護者の役割について考える。 2. 女性のライフサイクルの健康問題と看護を理解をする。 3. リプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）の概念と支援について理解する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1・2	／	1. トピックス・ニュースから、「母性」もしくは「性と生殖」に関する健康問題を考える。 クラス全員発表 2. リプロダクティブヘルス・ライツを理解し、自分の考えを持てる。	講義 GW	教室他	笹尾	「母性」または「性と生殖」に関するニュース・トピックスを調べ開講前にレポート提出する。
3	／	3. 性をとりまく社会と現状	講義 GW	教室	笹尾	
4	／	4. 生殖に関する形態機能学とライフサイクル	講義	教室	笹尾	
5	／	5.生涯を通じた性と生殖の健康を支える看護	講義 GW	教室	笹尾	
6・7	／	6.不妊のカップルへの支援 7. 出生前診断における倫理観	講義 GW	教室	髙須	課題：「不妊治療を受ける患者心理と看護者としてどのように支援していきたいか」レポート提出する。
8	／	試験		教室	笹尾	

評価方法	各課題とグループワークの発表、レポート、筆記試験で総合評価します。筆記試験は、45分で実施します。 配点は、1～5回(笹尾先生）は、80点（試験70点・課題等10点）、6・7回（髙須先生）は、20点（レポート）です。
教科書	使用する教科書は、笹尾先生が①③、高須先生が②③です。 ①医学書院　系統看護学講座　専門　『母性看護学概論』 母性看護学1 ②医学書院　系統看護学講座　専門　『母性看護学各論』 母性看護学2 ③医学書院　系統看護学講座　専門Ⅱ 『女性生殖器』 成人看護学9
参考書	医学書院　系統看護学講座　専門基礎　『解剖生理学』 メディック・メディア 『病気がみえる　産科』『病気がみえる　婦人科・乳腺外科』 財団法人看護統計協会 『国民衛生の動向　2024/2025』
履修上の留意点	第1、2回目の授業で一番関心の高いテーマについて個人で考え、調べてきたことをクラスで発表し、ピア評価を行う。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群:専門分野【母性看護学】

8年度	授業科目	生命の育みを支える看護方法Ⅰ	担当教員	鷹羽　昌子 山本　記穂	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30

【鷹羽　昌子】 授業科目に関連した実務経験の内容	助産師臨床経験6年
実務経験を活かした実践的な授業内容	助産師として、妊・産・褥婦のケアを実践した経験に基づいて、具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。
【山本記穂】 授業科目に関連した実務経験の内容	助産師臨床経験17年
実務経験を活かした実践的な授業内容	助産師として、妊・産・褥婦のケアを実践した経験に基づいて、具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。

学習目的・目標	目的:　妊娠・分娩期における親役割獲得過程を支援する看護を学ぶ。 目標:　1. 妊娠の生理・胎児の発育と母体の生理的変化、妊婦と家族の心理を理解する。 2. 妊婦のセルフマネジメントを支援する妊娠期の看護を理解する。 3. 分娩の生理を理解する。 4. 産婦のニーズに応じた分娩各期の看護を理解する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	1. 妊娠の成立とメカニズム、胎児の発育とその生理	講義	教室	鷹羽	貧血の予防・便秘予防・つわり対策の中から1つリーフレットを作成
2	/	2. 妊娠による母体の生理的変化 生理的変化に伴うマイナートラブルの予防とセルフマネジメント	講義	教室		
3	/	3. 妊娠期の心理・社会的特性、親になるための準備教育	講義	教室		
4	/	4. 妊婦と胎児のアセスメント1 妊娠とその診断、胎児の発育と健康状態の診断	講義	教室		
5	/	5. 妊婦と胎児のアセスメント2 妊婦と胎児の経過の診断	講義	教室		
6	/	6. レオポルド触診法、子宮底長・腹囲の測定、胎児心音聴取	講義 校内実習	教室		
7	/	7. 妊婦と家族の看護、出産と子育てに関する関係法規	講義	教室		
8	/	8. 分娩の要素、分娩の機序	講義	実習室		
9	/	9. 分娩の経過、産痛、産婦の心理	講義	教室		
10	/	10. 産婦・胎児、家族のアセスメント 産婦と家族の看護、分娩各期の看護	講義	教室		
11	/	11. 無痛分娩の看護	講義	教室	山本	
12	/	12. 新生児の生理、新生児の機能 子宮外適応現象	講義	教室	鷹羽	
13	/	13. 新生児のアセスメント、新生児の看護	講義	教室		
14	/	14. 新生児の看護の実際 新生児の観察、抱き方、寝かせ方、身体計測、バイタルサイン測定	校内実習	実習室		
15	/	試験、授業のまとめ	講義	教室		

評価方法	リーフレット課題と課題文、筆記試験で総合評価します。 配点は筆記試験80点、リーフレット課題15点、課題文で5点 試験は45分で実施します。試験後にまとめと課題文を実施します。
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門　『母性看護学概論』 母性看護学1 医学書院　系統看護学講座　専門　『母性看護学各論』 母性看護学2
参考書	メディック・メディア 『看護師・看護学生のためのなぜ？どうして？母性看護学』 メディック・メディア 『病気がみえる　産科』 メディック・メディア 『公衆衛生がみえる　2024－2025』 医学書院 『根拠と事故防止からみた母性看護技術』 医学書院 『なるほど解決！妊産褥婦のよくあるトラブル』
履修上の留意点	講義前に事前学習をして参加する。 自分の母子健康手帳を持参する。(4回目以降) 校内実習は、学校指定のジャージを着用する。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【母性看護学】

8年度	授業科目	生命の育みを支える看護方法Ⅱ	担当教員	笹尾　みゆき	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	30

【笹尾みゆき】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験12年、産婦人科病棟と外来での助産師臨床経験3年
実務経験を活かした実践的な授業内容	助産師として、妊・産・褥婦のケアを実践した経験に基づいて、具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。

学習目的・目標	目的：1. 産褥期における親役割獲得過程を支援する看護を学ぶ。 2. 生命の育みを支える看護実習のイメージができる。 目標：1. 産褥期の生理的変化（退行性変化・進行性変化）を理解する。 2. 褥婦のセルフケアを支援する産褥期の看護を理解する。 3. 母子一体の看護を展開する方法を理解する。 4. 育児技術の修得をはかる。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	／	1. 新生児の看護技術 （児の抱き方、衣類の着脱、おむつ交換、バイタルサイン測定）	校内実習	実習室	看護過程の展開は、翌日看護過程の用紙を提出
2・3	／	2. 沐浴演習	校内実習	実習室	
4・5	／	3. 沐浴技術チェック	校内実習	実習室	
6	／	4. 産褥の生理（退行性変化）	講義	教室	
7	／	5. 産褥の生理（進行性変化）・授乳の仕方	講義	教室	
8	／	6. 褥婦と家族の心理、母親になることへの支援、地域での支援	講義	教室	
9	／	7. 母子を支える継続看護、西尾市での子育て支援拠点事業について	講義 GW	教室	
10	／	8. 看護過程の説明 事例褥婦（Oさん）をイメージする。情報収集、全体像の把握	講義 GW	実習室	
11・12	／	9. TBL、シミュレーション 事例褥婦（Oさん）、1日目までの全体像の共有、1日目の看護とアセスメント	講義 GW	実習室	
13・14	／	10. BL、シミュレーション 事例褥婦（Oさん）、4日目までの全体像の共有、4日目の看護とアセスメント 褥婦（Oさん）を観察し、現在の状態をアセスメントできる	講義 GW	実習室	
15	／	試験、授業のまとめ		教室	

評価方法	事前課題、レポート、看護過程展開の課題と筆記試験で総合評価します。 筆記試験は45分で実施し、配点は筆記試験60点、課題（事前課題、7回目レポート、看護過程展開）40点です。
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門Ⅱ　『女性生殖器』 成人看護学9 医学書院　系統看護学講座　専門　『母性看護学概論』 母性看護学1 医学書院　系統看護学講座　専門　『母性看護学各論』 母性看護学2
参考書	メディック・メディア　『病気がみえる　産科』 医学書院　『根拠と事故防止からみた母性看護技術』
履修上の留意点	沐浴の技術チェックは、実習開始までに合格する。 看護過程の展開は事前課題を講義前に提出する。

※実務経験は令和7年4月1日現在

（3） 専門分野【精神看護学】

〖ねらいと構成〗

精神看護学では、人間の心の発達について学ぶ。またノーマライゼーションに基づき、全てのライフサイクルにおける人々が抱える心身の不調や生活上の問題を把握し、社会に参加しながら自分らしく生活するための支援方法を学ぶ。
看護の実践では、対象とコミュニケーションをとりながら対人関係を築くなかで、自己理解につなげていく。

- 専門分野 66単位
  - 基礎看護学 11単位
  - 地域・在宅看護論 6単位
  - 成人看護学 4(6)単位
  - 老年看護学 3(4)単位
  - 小児看護学 3(4)単位
  - 母性看護学 3(4)単位
  - 精神看護学 4単位
    - 心の健康と生活Ⅰ　1単位　30時間 ― 人間の発達／各年齢層の患者の特徴と看護
    - 心の健康と生活Ⅱ　1単位　30時間 ― 精神の発達／精神保健
    - 心の健康と生活を支える看護方法Ⅰ　1単位　15時間 ― 精神に障害を持つ対象の理解とその看護
    - 心の健康と生活を支える看護方法Ⅱ　1単位　15時間 ― 精神疾患や症状のある患者の看護
  - 看護の統合と実践 4単位
  - 複数の教育内容を併せて教授する科目 5単位
  - 臨地実習 23単位
    - 看護の基礎実習Ⅰ　1単位　45時間
    - 看護の基礎実習Ⅱ　2単位　90時間
    - 看護の基礎実習Ⅲ　2単位　90時間
    - 暮らしを支える看護実習　2単位　90時間
    - 健康危機状況の看護実習　2単位　90時間
    - 人生の最終段階の看護実習　2単位　90時間
    - 専門職連携実習　2単位　90時間
    - 高齢者の生活を支える看護実習　2単位　90時間
    - こどもの成長発達と健康を支える看護実習　2単位　90時間
    - 生命の育みを支える看護実習　2単位　90時間
    - 心の健康と生活を支える看護実習　2単位　90時間 ― 【精神看護学実習】精神を病む人の看護の実際を学ぶ
    - 看護の統合実習　2単位　90時間

科目群：専門分野【精神看護学】

7年度	授業科目	心の健康と生活Ⅰ	担当教員	川崎　真知	単位（時間数）	1(30)
第1学年					担当時間数	30

授業科目に関連した実務経験の内容	臨床心理士経験27年 公認心理師経験6年
実務経験を活かした実践的な授業内容	臨床心理士・公認心理師としての経験に基づいた講義により、人間の発達や各年齢層の精神発達、精神保健について学ぶ。

学習目的・目標	目的：　発達心理学、人格心理学に関する知識を学び、看護に役立てる。 目標：　1. 各発達段階の特徴を理解し、患者理解に生かす。 2. 発達障害に関する基礎知識を獲得する。 3. DVやchild abuseへの医療従事者としてとるべき対応を学ぶ。 4. ストレス理論とコーピングについて学び、患者理解および自己管理に生かす。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	／	1. 精神看護学で学ぶこと	講義	教室	
2	／	2. 精神の健康と障害	講義	教室	
3	／	3. 人間の心の諸活動	講義	教室	
4	／	4. 心身の発達（発達心理学概説）	講義	教室	
5	／	5-1. 各発達段階の特徴（胎児期～幼児期）	講義	教室	
6	／	5-2. 各発達段階の特徴（幼児期～学童期）	講義	教室	
7	／	6. 発達障害	講義	教室	
8	／	7-1. 各発達段階の特徴（思春期・青年期）	講義	教室	
9	／	7-2. 各発達段階の特徴（成人期）	講義	教室	
10	／	7-3. 各発達段階の特徴（成人期後期：老年期）	講義	教室	
11	／	8-1. 家族と精神の健康	講義	教室	
12	／	8-2. 家族と精神の健康	講義	教室	
13	／	9. ストレスと心身の機能	講義	教室	
14	／	10. 精神分析理論に基づく発達理解　パーソナリティー理論	講義	教室	
15	／	試験、授業のまとめ		教室	

評価方法	筆記試験とレポートで総合評価します。筆記試験は60分で実施します。
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ『精神看護の基礎』 精神看護学① 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ『精神看護の展開』 精神看護学② 医学書院　系統看護学講座　別巻 『精神保健福祉』
参考書	
履修上の留意点	レポート課題を必要に応じて出します。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【精神看護学】

8年度	授業科目	心の健康と生活Ⅱ	担当教員	嶋口 和彦	単位（時間数）	1(30)
第2学年					担当時間数	30

【嶋口和彦】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験19年．看護師養成所専任教員6年
実務経験を活かした実践的な授業内容	精神科病院及び精神科訪問看護での実務経験を活かし、治療・看護の実際や患者エピソードを学習内容を関連付けて講義します。 看護師養成所での教員経験を基に、臨地実習や資格試験のポイントも視野に入れて講義します。

学習目的・目標	目的：　心の健康に障がいを抱える人々を援助する上で必要となる知識を得る。 目標：　1. 精神保健福祉の変遷と精神障がい者の現状を捉える。 2. 精神科看護における特殊性とケアの原則を踏まえ、看護師の役割を知る。 3. 対象の置かれた「生きにくさ」に着目し、それぞれの生活の場に応じた援助のあり方を理解する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	／	1. 精神の健康と精神障がい	講義	教室	
2	／	2. 入院治療の意味	講義	教室	
3	／	3. 精神科における治療と看護（1）	講義	教室	
4	／	4. 精神科における治療と看護（2）	講義	教室	
5	／	5. 回復への支援	講義	教室	
6	／	6. 精神科における身体のケア	講義	教室	
7	／	7. 患者ー看護師関係	講義	教室	
8	／	8. 精神保健福祉の変遷	講義	教室	
9	／	9. 患者の権利擁護	講義	教室	
10 11	／	10. 11. 当事者・家族の声を聴く	講演	教室	レポート
12	／	12. 精神保健福祉活動の展開	講義	教室	
13	／	13. 地域での生活を支援するということ（1）	講義	教室	
14	／	14. 地域での生活を支援するということ（2）	講義	教室	
15	／	試験・授業のまとめ	筆記	教室	

評価方法	講演のレポート（20点）と筆記試験（45分で80点）の合計100点満点で評価します。
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　『精神看護の基礎』 精神看護学① 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　『精神看護の展開』 精神看護学② 医学書院　系統看護学講座　別巻　『精神保健福祉』
参考書	メヂカルフレンド社　『看護実践のための根拠がわかる精神看護技術』 中央法規出版　『精神看護学』 医歯薬出版　『精神看護学−学生−患者のストーリーで綴る実習展開』
履修上の留意点	講演は目的意識を持って参加しましょう。レポートは20点分の評価となります。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群:専門分野【精神看護学】

8年度	授業科目	心の健康と生活を支える看護方法Ⅰ	担当教員	中村　伸一	単位(時間数)	1(15)
第2学年					担当時間数	15

授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験30年
実務経験を活かした実践的な授業内容	精神科病院勤務での精神障害のある患者の看護経験に基づいて、 疾患の理解と看護援助の具体的な方法を講義に取り入れている。
学習目的・目標	目的:　対象の状態や状況に応じた看護援助を学ぶ 目標:　1. 精神障害を持つ対象の疾患・治療の特徴を理解する。 2. 症状や経過に応じた援助方法を理解する。 3. 家族への看護の必要性を理解し、考えることが出来る。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	/	1-1. 精神疾患の特徴と看護　統合失調症①	講義	教室	
2	/	1-2. 精神疾患の特徴と看護　統合失調症②	講義 GW	教室	
3	/	2. 精神疾患の特徴と看護　気分障害	講義	教室	
4	/	3. 精神疾患の特徴と看護　神経症性障害、ストレス関連障害	講義 GW	教室	
5	/	4. 精神疾患の特徴と看護 生理的障害(摂食障害)、パーソナリティ障害	講義	教室	
6	/	5. 精神疾患の特徴と看護 精神作用物質使用による精神障害、てんかん、神経発達障害	講義	教室	
7	/	6. 精神疾患の特徴と看護　器質性精神障害	講義	教室	
8	/	試験		教室	

評価方法	試験は45分で実施します。配点は100点です。
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ 『精神看護の基礎』 精神看護学① 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ 『精神看護の展開』 精神看護学②
参考書	NOUVELLE　HIROKAWA　第4版　精神看護学Ⅱ 『精神臨床看護学』 系統看護学講座　別巻 『精神保健福祉』 日本看護協会出版 『患者理解への看護の視点』
履修上の留意点	レポート課題を必要に応じて出します。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【精神看護学】

8年度	授業科目	心の健康と生活を支える看護方法Ⅱ	担当教員	中村　睦美	単位（時間数）	1(15)
第2学年					担当時間数	15＋研修1

学習目的・目標	目的：　精神疾患や症状ある患者の看護について学ぶ。 目標：　1. 精神疾患をもつ患者への関わり方が理解できる。 2. 集めた情報を整理し対象の全体像を理解し、看護問題を抽出することができる。 3. 自己理解、他者理解について理解できる。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	／	1. 精神看護におけるケアの人間関係 ・ケアの前提～感情を通して自分を知り、相手を知ること～ ・ケアの原則 ・ケアの方法	講義	教室	
2	／	2-1. 関係をアセスメントする　～プロセスレコード～ ・患者との関わりを再構築し、アセスメントする	講義 GW	教室	
3	／	2-2. 関係をアセスメントする　～プロセスレコード～ ・自己の患者との関わりを深い視点で再構築する	講義	教室	プロセスレコード 30点
4	／	3. 統合失調症の事例を通して看護過程を展開する ・患者の全体像を理解する ・生育歴を捉え、関連図を描く	講義	教室	生育歴　10点 関連図　30点
5	／	4-1. 統合失調症患者の看護 ・幻覚・妄想症状のある患者の看護 ・事例をもとに関わり方を考える	講義 GW	教室	看護計画　15点
6・7・8 (1h研修)	／	4-2. 統合失調症患者の看護 ・幻覚・妄想症状のある患者の看護（ロールプレイ）	校内実習 GW	実習室	
		4-3. 統合失調症患者の看護 ・幻覚・妄想症状のある患者の看護（ロールプレイ）	校内実習 GW	実習室	
		4-4. 統合失調症患者の看護 ・幻覚・妄想症状のある患者の看護　振り返り	講義 GW	教室	振り返りシート 15点

評価方法	課題点で評価（100点）します。
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　『精神看護の基礎』 精神看護学① 医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　『精神看護の展開』 精神看護学②
参考書	日本看護協会出版『患者理解の看護の視点』 講談社　『ナースが視る病気』 医学書院　系統看護学講座　別巻　『精神保健福祉』
履修上の留意点	

（3） 専門分野【看護の統合と実践】

〖ねらいと構成〗

看護の統合と実践では、入学時から在学中、卒後をとおし、生涯看護師として自己成長できるよう入学時からリフレクションの科目を設定しプロジェクト学習を導入する。自己を振り返り、自己の課題に主体的に取り組む力を身につける。チーム医療における役割を果たすために、看護管理概論の科目を設定し、看護のマネジメントを学ぶ。また看護の統合と実践の科目を設定し、今までに学んだ理論を使い、科学的根拠に基づいた看護判断ができ、保健・医療・福祉チームのメンバーとして多職種と協働し、自己のもてる力を最大限に活用する。臨床に近い形で実践するすることで、専門職業人としての自覚や責任を育む。また、災害看護と国際看護の科目では、災害時や国際看護の基礎を学ぶ。

- 専門分野 66単位
  - 基礎看護学 11単位
  - 地域・在宅看護論 6単位
  - 成人看護学 4(6)単位
  - 老年看護学 3(4)単位
  - 小児看護学 3(4)単位
  - 母性看護学 3(4)単位
  - 精神看護学 4単位
  - 看護の統合と実践 4単位
    - リフレクションⅠ　1単位　30時間　－　プロジェクト学習、リフレクションの方法と実際を学ぶ
    - 看護管理概論　1単位　30時間　－　看護管理・マネジメント、キャリア開発を学び、キャリア形成を考える
    - 災害看護と国際看護　1単位　30時間　－　災害時・救急時の看護、国際看護の基礎知識を学ぶ
    - 看護の統合と実践　1単位　30時間　－　基礎的な知識・技術を統合し、対象に応じた看護を学ぶ
  - 複数の教育内容を併せて教授する科目 5単位
  - 臨地実習 23単位
    - 看護の基礎実習Ⅰ　1単位　45時間
    - 看護の基礎実習Ⅱ　2単位　90時間
    - 看護の基礎実習Ⅲ　2単位　90時間
    - 暮らしを支える看護実習　2単位　90時間
    - 健康危機状況の看護実習　2単位　90時間
    - 人生の最終段階の看護実習　2単位　90時間
    - 専門職連携実習　2単位　90時間
    - 高齢者の生活を支える看護実習　2単位　90時間
    - こどもの成長発達と健康を支える看護実習　2単位　90時間
    - 生命の育みを支える看護実習　2単位　90時間
    - 心の健康と生活を支える看護実習　2単位　90時間
    - 看護の統合実習　2単位　90時間　－　臨床現場における看護を統合的に理解する

科目群：専門分野【看護の統合と実践】

7年度	授業科目	リフレクションⅠ	担当教員	中村　睦美	単位（時間数）	1（30）
第1学年					担当時間数	30

学習目的・目標	目的：看護専門職として成長し続けていくための思考のスキルを身につける。 目標：1. 成人としての学習方法がわかる。 2. プロジェクト学習の意義と方法がわかり、自ら取り組むことができる。 3. リフレクションの意義と方法がわかり、必要なスキルを身につけることができる。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題・提出
1	／	1. 成人学習者としての学習 ・意志ある学び－プロジェクト学習　・リフレクション　・成人の学習	講義	教室	
2	／	2-1. プロジェクト学習 ・ビジョン・ゴール　・ゴールシート作成　・ポートフォリオ 3-1. リフレクション導入	講義	教室	
3	／	3-2. リフレクション【5つのスキルトレーニング】 ①自己への気づき	講義	教室	自己への気づきの感想、うまくいかなかった場面の記述
4	／	3-3. リフレクション【5つのスキルトレーニング】 ②表現・描写・記述 ③評価	講義	教室	うまくいかなかった場面の記述（修正）
5	／	3-4. リフレクション【5つのスキルトレーニング】 ④批判的分析 ⑤総合	講義	教室	状況の記述、批判的分析、総合
6	／	3-5. リフレクション【ギブスのリフレクティブサイクル】 ①記述・描写 ②感情	講義	教室	校内実習で気になった場面の記述、感情
7	／	3-6. リフレクション【ギブスのリフレクティブサイクル】 ③評価　④批判的分析　⑤総合　⑥行動計画	講義	教室	評価、批判的分析、総合、行動計画 感想
8	／	2-2. ビジョン・ゴール振り返り会【7月】 ・ポートフォリオをもとに入学して3か月を振り返り、今後の方向性を共有する。	講義	教室	リフレクションシート
9	／	3-7. 看護場面のリフレクション【9月】 ・看護の基礎実習Ⅰに向けた準備	講義	教室	訪問看護見学実習で気になった場面の記述
10	／	3-8. 看護場面のリフレクション【10月】 ・看護の基礎実習Ⅰで気になった場面のリフレクション	講義	教室	実習で気になった3つの場面のリフレクション
11	／	3-9. 看護場面のリフレクション【10月】 ・看護の基礎実習Ⅰで気になった場面を深くリフレクションする	講義	教室	実習での1つの場面をより深くリフレクション
12	／	2-3. ビジョン・ゴール振り返り会【12月】 ・ポートフォリオをもとに入学して8か月を振り返り、今後の方向性を共有する。	講義	教室	リフレクションシート
13	／	2-4. 成長確認とリフレクション【3月】 ・成長エントリーシート ・成長報告書 ・自分と向き合うシート	講義	教室	成長エントリーシート、成長報告書、自分と向き合うシート
14・15	／	2-5. 成長発表会【3月】 ・凝縮ポートフォリオを作成し、一人ずつ発表し、クラスで学びを共有する	発表会	教室	凝縮ポートフォリオ

評価方法	提出物で評価します。
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　『基礎看護技術Ⅰ』
履修上の留意点	・提出物は8：50に提出です。1時限目の授業がない場合は、授業がスタートする時間の10分前に提出です。提出遅れの場合、提出時間までに事前連絡をしてください。事前連絡がなければ課題点はありません。

科目群：専門分野【看護の統合と実践】

8年度	授業科目	看護管理概論	担当教員	高須　由江 鳥居　ゆかり 榊原　智香子	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	30

【高須由江】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験30年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（管理者）の経験に基づいた講義により、看護に関する法律と看護専門職者としての基本的行動について学ぶ。
【鳥居ゆかり】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験34年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（管理者）の経験に基づいた講義により、臨床における医療安全の実際を学ぶ。
【榊原智香子】 授業科目に関連した実務経験の内容	助産師臨床経験35年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（管理者）の経験に基づいた講義により、臨床における医療安全の実際を学ぶ。

学習目的・目標	目的：　看護管理の基礎を学び、患者ケア・看護サービス提供のマネジメントについて理解する。 目標：1. 看護管理の基礎を学び、看護ケアを効果的に行う方法を理解する。 2. 保健師助産師看護師法を理解し、看護専門職の自覚をもつ。 3. 医療安全管理について理解し、安全な看護の基本的行動の基礎ができる。 4. 看護師として基本的倫理行動を形成する。 5. 看護専門職として自律するため、セルフ・キャリアマネジメントを考える。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	看護管理学・看護サービスの基本的概念	講義	教室	高須	
2	/	看護とマネジメント/看護ケアのマネジメント	講義	教室		
3	/	地域における看護マネジメント	講義	教室		
4	/	人材マネジメント	講義	教室		
5	/	リーダーシップとマネジメント①	講義	教室		
6	/	リーダーシップとマネジメント②	演習	教室		
7	/	リーダーシップとマネジメント③	演習	教室		
8	/	リーダーシップとマネジメント④	発表	教室		
9	/	感染管理	講義	教室	鳥居	
10	/	職員の安全管理	講義 演習	教室	鳥居	
11	/	医療安全管理の基礎	講義	教室	榊原	
12	/	医療安全：KYT	講義	教室	榊原	
13	/	看護職のキャリア形成	講義 演習	教室	鳥居	
14	/	キャリアプランの作成	講義	教室	鳥居	
15	/	看護倫理	講義 演習	教室	榊原	

評価方法	試験は45分で実施し、配点は100点です。 （配点は1～8回(高須先生）の範囲が25分で60点、9・10・13・14回（鳥居先生）の範囲が10分で20点、11・12・15回（榊原先生）の範囲が10分で20点） 試験は、講義時間外の時間で実施します。

教科書	医学書院　系統看護学講座 『看護管理』 11・12・15回目（榊原先生）は、医学書院　系統看護学講座 『医療安全』も使用します。
参考書	その都度、資料提供します。
履修上の留意点	

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：統合分野【看護の統合と実践】

8年度	授業科目	災害看護と国際看護（国際看護）	担当教員	西川　まり子	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	8

【西川まり子】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験18年　国連ニューヨーク本部　UFFPA、UNICEF勤務経験
実務経験を活かした実践的な授業内容	臨床の看護師経験と国連の勤務経験を活かした講義により、国際看護の現状と看護師の役割を学ぶ。
学習目的・目標	目的：　施設内看護から視野を広げ、国際看護の現状、国際看護での看護師の役割を学ぶ。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	世界の国際看護の現状 グローバルヘルスの指標	講義	教室	西川	
2		国際看護における看護師の役割	講義	教室		
3		日本での国際看護の現状	講義	教室		
4		日本での外国人の現状	講義	教室		

評価方法	評価は課題レポート(30点）で評価します。
教科書	①ユニセフ基礎リーフレット ②世界子供白書2024<要約版>
参考書	医学書院　系統看護学講座 『災害看護学・国際看護学』
履修上の留意点	以下の事前学習をして授業に参加する。 ①ユニセフ基礎リーフレットの世界地図を覚えて授業に参加する。 ②世界子供白書2024<要約版>を読んで、関心を持って授業に参加する。 「災害看護」は70点分を45分の筆記試験で評価する。「国際看護」は30点分を課題で評価する。 ただし、評価の時期は各講師授業終了時とする。「災害看護」と「国際看護」の合計が60点に満たない場合は、各講師毎に再試験を行う。 各講師毎の得点の合計を授業科目の評価とする。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：統合分野【看護の統合と実践】

8年度	授業科目	災害看護と国際看護（災害看護）	担当教員	相沢　努	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	22

授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験22年、救急看護認定看護師経験12年
実務経験を活かした実践的な授業内容	臨床の看護師経験と救急看護認定看護師の勤務経験を活かした講義により、災害時・救急時の看護を講義・演習に取り入れている。
学習目的・目標	目的：　施設内看護から視野を広げ、国際看護や災害時・救急時の看護を学ぶ。 目標：　1. 災害に関する基礎知識を学ぶ。 2. 災害時の看護の役割を理解する。 3. 心肺停止患者の心肺蘇生法を実践する。 4. 心肺停止患者にAEDを使用できる。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	/	1. 災害看護の基礎知識、災害に関する制度	講義	教室	
2	/	2. 災害が人々に与える影響、災害時サイクルに応じた看護の役割	講義	教室	
3	/	3. 災害時の看護の役割 ・トリアージの基本と方法 ・トリアージ机上シュミレーション	講義	教室	
4・5	/	4. 災害時の看護の役割 ・トリアージ演習	校内実習	未定	
6	/	5. 救急時の看護 ・心肺停止状態への対応/一次救命処置	講義	教室	
7・8	/	6. 救急時の看護 ・心肺蘇生法の実際（BLSの実践　AEDの操作方法）	校内実習	実習室	
9・10	/	7. 被災病院における発災直後の看護活動	校内実習	教室	
		8. 災害時のこころのケア　災害看護活動の課題	講義		
11	/	試験・授業のまとめ		教室	

評価方法	試験と課題で評価します。 試験は45分で実施し、配点は70点です。
教科書	医学書院　系統看護学講座　統合分野 『災害看護学・国際看護学』
参考書	
履修上の留意点	「災害看護」は70点分を45分の筆記試験で評価する。「国際看護」は30点分を課題で評価する。 ただし、評価の時期は各講師授業終了時とする。「災害看護」と「国際看護」の合計が60点に満たない場合は、各講師毎に再試験を行う。 各講師毎の得点の合計を授業科目の評価とする。

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【看護の統合と実践】

9年度	授業科目	看護の統合と実践	担当教員	中村　睦美	単位（時間数）	1（30）
第3学年					担当時間数	30

学習目的・目標	
	目的：　既習の知識・技術・態度を統合し、看護が実践できる基礎的能力を養う。 目標：1. ヒューマンケアの基本的能力を理解することができる。 2. 倫理面やリスク面を配慮した看護を理解し、その根拠を考えることができる。 3. 看護の優先度や医療安全の視点を考慮し、看護計画を立案し実践することができる。 4. 複数患者の事例を通して、多重課題における看護の優先度を考えることができる。 5. チームの学びを振り返り、実習に向けてチームの目標を表現することができる。

回数	月日	学習内容	方法	場所	課題
1	／	1. イントロダクション ・実習概要　　・授業概要	講義	教室	事前課題
2	／	2. チーム演習（統合の基礎知識） ・チーム医療　　・看護のマネジメント	講義 GW	教室	
3	／	3. チーム演習（統合の基礎知識） ・ヒューマンケア	講義 GW	教室	
4	／	4. チーム演習 ・学生看護チームの理念を考える　　・夜間看護について ・事例（骨折患者・肺気腫患者）をイメージする	講義 GW	教室	
5	／	5. チーム演習 ・骨折事例患者の行動計画 リスクと対処法、優先すべきケア、24時間の行動計画立案	GW	教室	
6	／	6. チーム演習 ・肺気腫事例患者の行動計画 リスクと対処法、優先すべきケア、24時間の行動計画立案	GW	教室	
7	／	7. チーム演習 ・学生2人で2事例患者を受け持ち、1日の実習行動計画を立案する ・チーム内で行動計画を共有し、チームとしての実習行動計画を立案する	GW	教室	
8	／	8. 多重課題演習準備 ・実習行動計画に基づき看護を考える　　・多重課題演習概要	GW	教室	
9	／	9. 演習（教員・指導者参加） ・多重課題演習	校内実習	実習室	
10	／	10. チームデブリーフィング ・多重課題演習の振り返り、チームでの対応を考える	GW	演習室 他	
11	／	11. 発表準備 ・チームでの対応を考える（実践方法、資料作成）　　・発表会概要	GW	演習室 他	
12	／	12・13. 発表会（クラスデブリーフィーング） ・チームで考えた対応を実践しながら発表する ・クラスで討議し、チームで考えた対応を再考する	発表	実習室	
13	／				
14	／	14・15. 授業のまとめ ・「授業からの学びと実習で取り組みたい目標」をチームでレポートにまとめる ・実習にむけての準備	GW	教室 視聴覚 教室	
15	／				

評価方法	授業時間内に行う小テスト、チーム課題、発表、レポートで評価する。
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門　看護管理　看護の統合と実践① メヂカルフレンド社　別巻　看護管理　看護研究　看護制度 メヂカルフレンド社　看護の統合と実践①　看護実践マネジメント　医療安全
参考書	
履修上の留意点	

（3） 専門分野【複数の教育内容を併せて教授する科目】

〖ねらいと構成〗

健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復にむけて、横断的に看護を捉えた考え方を導入する。健康レベル（健康・健康障害と回復過程・終末期）を踏まえ、各発達段階に必要な中範囲理論をもとに多角的な看護の実践方法を学ぶ。
基礎看護学と専門領域をつなぎ、専門領域の対象別看護の土台となる力を身につけることをねらいとする。

- 専門分野 66単位
  - 基礎看護学 11単位
  - 地域・在宅看護論 6単位
  - 成人看護学 4(6)単位
  - 老年看護学 3(4)単位
  - 小児看護学 3(4)単位
  - 母性看護学 3(4)単位
  - 精神看護学 4単位
  - 看護の統合と実践 4単位
  - 複数の教育内容を併せて教授する科目 5単位
    - ライフステージと健康支援 1単位 15時間 — 健康の保持増進と疾病予防
    - 健康段階別看護 1単位 30時間 — 健康の回復に向けた看護、健康問題・健康課題を明確にする思考過程
    - 周術期と看護 1単位 30時間 — 周術期における特徴的な治療法に対する看護
    - 終末期と看護 1単位 15時間 — その人らしい生を全うする援助
    - リフレクションⅡ 1単位 30時間 — 自己の看護の振返りと意味づけ
  - 臨地実習 23単位
    - 看護の基礎実習Ⅰ 1単位 45時間
    - 看護の基礎実習Ⅱ 2単位 90時間
    - 看護の基礎実習Ⅲ 2単位 90時間
    - 暮らしを支える看護実習 2単位 90時間
    - 健康危機状況の看護実習 2単位 90時間
    - 人生の最終段階の看護実習 2単位 90時間
    - 専門職連携実習 2単位 90時間
    - 高齢者の生活を支える看護実習 2単位 90時間
    - こどもの成長発達と健康を支える看護実習 2単位 90時間
    - 生命の育みを支える看護実習 2単位 90時間
    - 心の健康と生活を支える看護実習 2単位 90時間
    - 看護の統合実習 2単位 90時間

科目群:専門分野【複数の教育内容を併せて教授する科目】

7年度	授業科目	ライフステージと健康支援	担当教員	笹尾　みゆき 近藤　ゆかり 鈴木　陽子 今井　清美	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15

学習目的・目標	
	目的 ： 各発達段階の健康の保持・増進、疾病の予防、健康回復への支援方法を学ぶ。 目標 ： ライフステージ各期の、身体的・精神社会的な発達変化と発達課題を理解する。 ライフステージ各期に応じた健康上のニーズに合わせた看護を考える。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	1. ライフステージと健康支援を学ぶ ・ライフサイクルと発達課題のとらえ方 （マズロー、エリクソン）	講義	教室	笹尾	
2	／	2. 成人期の理解と看護 ・グループで理論の理解を深めよう	講義	教室	近藤	事前課題 発表準備
3	／	3. 健康支援と基礎理論 ・行動・認識変容、行動強化に関する理論、看護のアセスメントと援助に関する理論（自己効力、エンパワメント、セルフケア理論）	講義	教室	近藤	
4	／	4. 小児　理論と発達課題／健康支援の方法 （ピアジェ、ボウルビィ）	講義	教室	鈴木	
5	／	5. 成人　理論と発達課題／健康支援の方法 （ストレス・コーピング理論、アンドラゴジー）	講義	教室	近藤	
6	／	6. 母性　理論と発達課題／健康支援の方法 （ボウルビィ,クラウス、ケネル、ルービン）	講義	教室	笹尾	
7	／	7. 老年　理論と発達課題／健康支援の方法 （ハヴィガースト、対象喪失、自尊感情）	講義	教室	今井	
8	／	試験		教室	近藤	

評価方法	筆記試験で評価します。試験は45分で実施します。 (配点は1・6回(笹尾先生)の範囲が15分で30点、2・3・5回(近藤先生)の範囲が20分で40点、4回(鈴木先生)・7回(今井先生)が5分で15点です。)
教科書	1回目(笹尾先生)は①②、2・3・5回目(近藤先生)は①②④⑤、4回目(鈴木先生)・7回目(今井先生)は②、6回目(笹尾先生)は①②③を使用します。 ①医学書院　系統看護学講座 『臨床看護総論』 基礎看護学4 ②メディックメディア　看護がみえる vol. 5　『対象の理解Ⅰ』 ③医学書院　系統看護学講座 『母性看護学概論』 母性看護学概論 ④医学書院　系統看護学講座 『成人看護学総論』 成人看護学1 ⑤メディックメディア　看護がみえる 『看護過程の展開』
参考書	
履修上の留意点	

科目群:専門分野【複数の教育内容を併せて教授する科目】

8年度	授業科目	健康段階別看護	担当教員	深谷　英子 鈴木　陽子 今井　清美 笹尾　みゆき	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30

学習目的・目標	目的:健康問題・健康課題を明確にする思考過程と、特徴的な治療法に対する看護を学ぶ。 目標:健康段階を判断し、看護を考える事ができる

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	1. 患者の心理の特徴・健康段階の理解と看護の役割	講義	教室	深谷	
2	／	2-1. 小児の健康段階の特徴と看護	講義	教室	鈴木	
3	／	2-2. 小児　　川崎病	講義	教室		
4	／	3-1. 急性期の特徴と看護	講義	教室	深谷	
5	／	3-2. 急性期　COPD急性増悪	講義	教室		
6	／	4-1. 回復期・リハビリテーション期の特徴と看護	講義	教室		
7	／	4-2. 回復期　COPD	講義	教室		
8	／	5-1. 慢性期の特徴と看護	講義	教室	今井	
9	／	5-2. 慢性期　COPD	講義	教室		
10	／	6-1. 終末期の特徴と看護	講義	教室		
11	／	6-2. 終末期　肺がん	講義	教室		
12	／	7-1. 母性の妊娠期と産褥期の特徴と看護	講義	教室	笹尾	
13	／	7-2. 母性　　切迫早産の看護①	講義	教室		
14	／	7-3. 母性　　妊娠性高血圧症候群の看護②	講義	教室		
15	／	試験、授業のまとめ		教室	深谷	

評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。 (配点は1回・4～7回(深谷先生)の範囲が20分で35点、2～3回(鈴木先生)の範囲が5分で15点、8～11回(今井先生)の範囲が10分で30点、12～14回(笹尾先生)の範囲が10分で20点)
教科書	1回目(深谷先生)は①⑤、2・3回目(鈴木先生)は②⑤、4～11回目(深谷先生・今井先生)は①③⑤、12～14回目(笹尾先生)は④を使用します。 ①医学書院　系統看護学講座 『臨床看護総論』 基礎看護学④ ②医学書院　系統看護学講座 『小児臨床看護各論』小児看護学② ③医学書院　系統看護学講座 『呼吸器』 成人看護学② ④医学書院　系統看護学講座 『母性看護学概論』 母性看護学概論 ⑤メディックメディア　看護がみえる　Vol. 5 『対象の理解Ⅰ』 第1版
参考書	
履修上の留意点	

科目群：専門分野【複数の教育内容を併せて教授する科目】

8年度	授業科目	周術期と看護	担当教員	石川　暁美、上野　日出見、石川千佳、加藤　美佑紀、鈴木　陽子、笹尾　みゆき	単位（時間数）	1（30）
第2学年					担当時間数	30

【石川　暁美】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験17年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（整形外科病棟）での臨床経験に基づいた周術期にある患者の看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。
【上野　日出見】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験26年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（手術室病棟）での臨床経験に基づいた術中患者の看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。
【石川　千佳】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験15年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（外科病棟）での臨床経験に基づいた術後の継続看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。
【加藤　美佑紀】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験8年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務での臨床経験に基づいた看護の講義により、周術期にある老年期の対象の看護援助を学ぶ。
【鈴木　陽子】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験14年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務の小児の経験に基づいて、周術期にあるこどもの具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。
【笹尾　みゆき】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験12年、産婦人科病棟と外来での助産師臨床経験3年
実務経験を活かした実践的な授業内容	助産師として、産婦人科病棟臨床経験に基づいた周術期にある患者の看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。

学習目的・目標	目的：　各発達段階の周術期にある対象の看護援助を学ぶ。 目標：　1. 周術期にある対象の身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2. 手術による生体反応の変化と回復過程を理解する。 3. 手術前の身体や心の準備に対する援助を理解する。 4. 手術後の合併症に対する援助を理解する。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	1. 周手術期看護の概要と看護師の役割 2. 麻酔の種類と看護	講義	教室	石川 暁美	事前課題
2	／	3. 術前の患者の看護 ・術前患者のアセスメント、術前訓練 ・前日・当日の看護	講義	教室	石川 暁美	事前課題
3	／	4. 術中の患者の看護 ・入室中の看護、麻酔導入時の看護 ・手術室看護師の役割、手術終了時の看護	講義	教室	上野	
4	／	5-1. 手術侵襲と生体反応 ・神経・内分泌系の反応、代謝系の反応、Mooreの分類 ・消化器系・呼吸器系への影響 ・創傷の治癒過程、創傷処置	講義	教室	石川 暁美	
5	／	6. 術後合併症の理解	講義 GW	教室	石川 暁美	事前課題
6	／	6. 術後合併症の理解	GW 発表会	教室	石川 暁美	
7	／	7. 術後合併症の観察 ・胃癌の事例　術後の観察と看護	校内実習	実習室	石川 暁美	事前課題

8	／	8. 術後の患者の看護 ・術後のベッド作成 ・ドレーン・胃管の管理（処置）、低圧持続吸引の管理、膀胱留置カテーテルの管理	校内実習	実習室	石川 暁美	
9	／	病態関連図の作成　part① ・病態の理解 ・病態関連図の作成	講義	教室	石川 暁美	事前課題
10	／	病態関連図の作成　part② ・「特派員」で全体関連図を修正	講義	教室	石川 暁美	
11	／	9. 術後の継続看護 ・術後の継続看護の必要性と実際 ・術後の継続看護の実際 ・継続看護を支える看護師間・多職種連携	講義	教室	石川 千佳	
12	／	10. 高齢者と手術	講義	教室	加藤	
13	／	11. 小児とその家族と手術	講義	教室	鈴木	
14	／	12. 帝王切開術を受ける産婦の看護	講義	教室	笹尾	
15	／	試験、授業のまとめ	講義	教室	石川 暁美	

評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施します。配点は100点です。 (配点は1～2・4～10回(石川暁美先生）の範囲が20分で75点（課題点含む）、3・11～14回（上野先生・石川千佳先生・加藤先生・鈴木先生・笹尾先生）は各5分で5点）
教科書	1～10回目（石川暁美先生・上野先生）は①～③、8回目（石川暁美先生）は④も使用します。11回目（石川千佳先生）は①②、12回目（加藤先生）は⑤、13回目（鈴木先生）は⑥、14回目（笹尾先生）は⑦を使用します。 ①医学書院　系統看護学講座　別巻 『臨床外科看護総論』 ②秀和システム　看護の現場ですぐに役立つ術前・術後ケアの基本 ③医学書院　系統看護学講座　専門分野 『消化器』 成人看護学 5 ④インターメディカ 『写真でわかる臨床看護技術②』 ⑤医学書院　系統看護学講座　専門分野 『老年看護学』 ⑥医学書院　系統看護学講座　専門分野 『小児看護学概論　小児臨床看護総論』 小児看護学1 ⑦医学書院　系統看護学　専門分野 『母性看護学各論』 母性看護学2
参考書	
履修上の留意点	

科目群：専門分野【複数の教育内容を併せて教授する科目】

8年度	授業科目	終末期と看護	担当教員	田境　公治 鈴木　陽子 中嶋　順子	単位（時間数）	1（15）
第2学年					担当時間数	15

【田境　公治】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験23年、がん性疼痛看護認定看護師経験6年
実務経験を活かした実践的な授業内容	がん性疼痛看護認定看護師としての経験に基づいた講義により、終末期にある対象の特徴と援助方法を学ぶ。
【鈴木　陽子】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験14年
実務経験を活かした実践的な授業内容	病院勤務（小児科病棟）での小児期にあるこどもの看護の経験に基づいて、こどもを取り巻く環境や小児看護の考え方を講義・演習に取り入れている。
【中嶋　順子】 授業科目に関連した実務経験の内容	看護師臨床経験23年、訪問看護師経験6年 エンドオブライフ協定認定ファシリテーター7年
実務経験を活かした実践的な授業内容	在宅における看取りの経験に基づいた講義により、終末期にある対象の特徴と援助方法を学ぶ。

学習目的・目標	目的：　対象と家族のQOLの向上に繋げ、その人らしい生を全うするための看護を学ぶ。 目標：　1.　各発達段階における死の受容に対する看護を理解する。 2.　がん治療に伴う看護を理解する 3. 終末期患者の緩和ケアを理解する。 4. 看取りと死亡後のケア、家族への対応について理解することができる。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	終末期における患者の理解（成人・老年期における終末期の特徴）	講義	教室	田境	
2	／	終末期における患者の理解（小児における終末期の特徴） 死の受容（周産期、こどもと家族の死の捉え方）	講義	教室	鈴木陽	
3	／	死の受容（成人期・高齢者における死の捉え方）	講義	教室	田境	
4	／	緩和ケア　がん性疼痛の緩和ケア	講義	教室	田境	
5	／	看とりの看護　グリーフケア　死亡時の看護	講義	教室	田境	
6	／	看とりの看護　成人の看とり、臨終期の看護、家族ケア 臨死期の対応、家族の参加、患者心理	講義	教室	田境	
7	／	在宅における看とりの看護　　自宅で死を迎えることの意味	講義	教室	中嶋	
8	／	試験		教室	田境	

評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。 （配点は1・3～6回の範囲が40分で90点、2回の範囲が5分で10点）
教科書	①医学書院　系統看護学講座 『成人看護学総論』 成人看護学1 ②ヌーベルヒロカワ 『緩和・ターミナルケア看護論』 ③医学書院　系統看護学講座 『小児看護学概論 小児臨床看護総論』 小児看護学①
参考書	
履修上の留意点	

※実務経験は令和7年4月1日現在

科目群：専門分野【複数の教育内容を併せて教授する科目】

9年度	授業科目	リフレクションⅡ	担当教員	小笠原 順美 今井　清美 笹尾 みゆき 鈴木　陽子	単位（時間数）	1（30）
第3学年					担当時間数	30

学習目的・目標	
	目的：実践した看護を振り返り、自己の課題に気づき、看護師として成長し続けることができる。 目標：1. 看護実践の中で気がかりな経験を振り返り、文献を活用して批判的に分析できる。 2. 1の学びをレポートとしてまとめことができる。 3. 各領域実習における経験からの学びを振り返り、実践に活かせる学びを提案できる。 4. 個人・グループの学びをクラスで共有し、次に活かせる関わりを考えることができる。

回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	イントロダクション リフレクションⅡの紹介 1. ケースレポートとは ・レポートの構成と評価視点 ・ケースレポート計画書 ・レポート作成ルール ・引用文献・参考文献の活用 ・ケースレポートをクリティーク	講義	教室	小笠原	2回目の授業時、看護実践から気がかりな看護体験を記述し持参（実習ノート）
2～6	/	2－1. 気がかりな看護場面を振り返りレポートとして文章化する。 テーマ はじめに Ⅰ. 患者紹介 Ⅱ. 看護の実際 Ⅲ. 考察 Ⅳ. 具体的シチュエーションにおける行動計画 おわりに 引用文献	個人ワーク	視聴覚教室	小笠原	・レポート計画書作成 ・個人の体験をレポートとしてまとめる（40点）
7～9	/	3. 老年看護学実習経験のリフレクション ・実習経験からの学びをグループで共有 ・グループでテーマを決め、看護実践に活かせる学びを提案 ・クラス発表をとおして学びを共有	GW	教室	今井	学びの提案書を作成
10～12	/	4. 母性看護学実習経験のリフレクション ・実習経験からの学びをグループで共有 ・テーマを決め、看護実践に活かせる学びを提案 ・クラス発表をとおして学びを共有	GW	教室	笹尾	学びの提案書を作成
13～15	/	5. 小児看護学実習経験のリフレクション ・実習経験からの学びをグループで共有 ・グループでテーマを決め、看護実践に活かせる学びを提案 ・クラス発表をとおして学びを共有	GW	教室	鈴木	グループで学びの提案書を作成

評価方法	提出物で評価します。（ケースレポート40点・各実習20点）
教科書	医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　『基礎看護技術Ⅰ』 ☐
参考書	
履修上の留意点	〈第1回目～6回目：ケースレポート〉 ・ケースレポート作成を課題とします。経験の意味づけと次の看護で活かす学びを文献を活用して考察してください。（40点）。 ※ 期限までに提出できない場合は評価できません。

臨地実習の考え方

臨地実習は、教育目標を達成するための科目であり、看護師の土台となる看護実践能力の育成に欠かせない、最も効果的な授業である。看護学の統合の場として位置づけ、看護実践能力を身につけることをねらいとする。

看護実践能力は知識を使い、思考・判断し、実践し、振り返ることで育成され、獲得できる。学生は、臨地実習で対象者や家族と関わり、さまざまな反応から状況を把握し、既習の知識や技術を用いて必要な看護を実践し、振り返り意味を見出し、次の看護に活かすことで看護実践能力を獲得していく。

また、近年の医療提供体制の変化に適応し、必要とされる看護を学ぶ。地域で実践されている看護を、暮らしを支える看護実習で訪問看護の実際から学ぶ。チーム医療や多職種連携・協働における看護を、専門職連携実習で多職種と連携・協働する中で看護を実践することから学ぶ。臨床判断の基礎的能力を育成するため、看護の基礎実習Ⅲで実際に臨床判断を活用して看護を実践し、リフレクションをとおして経験値を修得していく。

学生が、臨地実習を通して専門職業人を目指す人として倫理的行動・態度がとれることを期待したい。そこで、学生が自らの課題に主体的に取り組み、看護者としての成長に繋がるように、プロジェクト学習を実習に活用することにした。

看護の基礎実習は、学習進度に合わせて３段階に組み立てる。「看護の基礎実習Ⅰ」では、療養生活を送る対象の生命と生活を守るための理解を深め、必要な看護について考えることを学ぶ機会とする。「看護の基礎実習Ⅱ」では、受持患者にとって最善の看護を導き出し、実践することを学ぶ機会とする。「看護の基礎実習Ⅲ」では、臨床判断を活用し、受持患者に必要な看護を考えることを学ぶ機会とする。

成人・老年看護学実習では、対象を青年期から壮年期、向老期から老年期にある人を対象とし、経過・健康レベルに合わせ、３段階に実習を構成する。「健康危機状況の看護実習」では、健康危機状況にある対象の看護を実践する。「人生の最終段階の看護実習」では、人生の最終段階にある対象の看護を実践する。「専門職連携実習」では、回復期にある対象へ多職種と連携・協働し看護を実践する。

老年看護学実習（高齢者の生活を支える看護実習）では、高齢者の健康の維持増進・健康管理・日常生活の援助、その人らしい生活を支える看護を学ぶ。具体的には、老人保健施設で生活する高齢者の看護援助を実践する。また、認知機能の低下した対象への看護援助の実際から看護の役割を考えるためにグループホームでの実習を組み入れる。

小児看護学実習（こどもの成長発達と健康を支える看護実習）では、こどもを中心とする家族の看護、子どもの状態に合わせた複雑な看護技術、こどもの健康増進のために必要な看護師の役割を学ぶ。具体的には、こどもの成長発達を捉え、健康障害をもつこどもと家族への看護を実践する。また、健康なこどもの発達を理解し、保育の実際を体験するために保育園での実習を組み入れる。

母性看護学実習（生命の育みを支える看護実習）では、いのちが創造され、いのちを産み育む人々を支える看護を学ぶ。具体的には、正常な妊娠経過の妊産婦、褥婦、新生児の看護の実際を学ぶ。また、親になるための準備教育、地域で実施されている育児支援活動

に参加し、看護者の役割を考えるために助産院と子育て支援センターでの実習を組み入れる。

精神看護学実習（心の健康と生活を支える看護実習）では、心身の不調から生活上の問題をもつ対象がその人らしく生活するための看護を学ぶ。具体的には、精神を病む人の看護の実際を学ぶ。また、対象との対人関係を築くなかで自己理解を深めていく。

地域・在宅看護論実習（暮らしを支える看護実習）では、地域で療養している人々を支える看護の実際から看護者の役割を考える。具体的には、病院から在宅療養へ移行する人々、在宅療養をしている人々への看護の実際を見学・体験する。訪問看護ステーションの実習を中心とし、在宅療養をしている人とその家族への看護の実際を学ぶ。また地域における保健・医療・福祉の連続性と看護の役割を学べるように、患者支援室や地域包括ケア病棟での実習を組み入れる。

看護の統合と実践実習（看護の統合実習）では、チームの一員としての看護師の役割と責務を考える。具体的には、複数の患者を受け持ち、優先順位やリスク、時間管理を踏まえた看護をチームで実践し、看護を統合的に理解する。また看護の継続性を学ぶことができるように夜間実習も組み入れて、看護を展開する。

令和7年度入学生　臨地実習計画一覧表

教育内容			単位・時間数	時期	実習内容の概要	実習場所
専門分野	基礎看護学実習	看護の基礎実習Ⅰ	1（45）	1年次	受持患者の価値観やニーズから必要な看護を考え、指導者と共に実践する	西尾市民病院
		看護の基礎実習Ⅱ	2（90）	2年次前期	受持患者の望む健康に近づける最善の看護を導き出し、実践する	西尾市民病院　碧南市民病院
		看護の基礎実習Ⅲ	2（90）	2年次後期	臨床判断を活用し、受持患者にとって必要な看護を考える	西尾市民病院
	成人・老年看護学実習	健康危機状況の看護実習	2（90）	2・3年次	健康危機状況にある対象の看護を実践する	西尾市民病院
		人生の最終段階の看護実習	2（90）	2・3年次	人生の最終段階にある対象の看護を実践する	西尾市民病院
		専門職連携実習	2（90）	2・3年次	回復期にある対象へ多職種と連携・協働し看護を実践する	小林記念病院 あいちリハビリテーション病院
	老年看護学実習	高齢者の生活を支える看護実習	2（90）	2・3年次	施設で生活する高齢者の看護を実践する	にしお老人保健施設　彩り、デイケア 米津老人保健施設、デイケア 介護老人保健施設いずみ、デイケア 老人保健施設ひまわり、デイケア 西尾市内グループホーム
	小児看護学実習	こどもの成長発達と健康を支える看護実習	2（90）	2・3年次	健康なこどもの発達の理解と保育の実際を体験する	西尾市内保育園
					健康障害をもつこどもと家族への看護を実践する	岡崎市民病院
	母性看護学実習	生命の育みを支える看護実習	2（90）	2・3年次	妊婦、産婦、褥婦および新生児の看護を指導者と共に実践する	八千代病院 安城更生病院
					親になるための準備教育、地域で実施されている育児支援活動に参加して看護者の役割を考える	マザーズ・プレイス かとう助産院 西尾市内子育て支援センター
	精神看護学実習	心の健康と生活を支える看護実習	2（90）	3年次	心身の不調から生活上の問題をもつ対象が、その人らしく生活するための看護の実際を学ぶ	京ケ峰岡田病院
	地域・在宅看護論実習	暮らしを支える看護実習	2（90）	3年次	在宅療養をしている人とその家族への看護の実際を見学・体験する	西尾病院訪問看護ステーション リハビリ訪問看護ステーション西尾 訪問看護ステーションラルゴ しんかわ訪問看護ステーション やまお訪問看護ステーション 碧南市訪問看護ステーション 訪問看護ステーション仁　碧南 西尾市民病院訪問看護ステーション
					病院から在宅へ移行する人々の看護、地域における保健・医療・福祉の連続性と看護の役割を学ぶ	西尾市民病院　患者支援室 西尾市民病院　地域包括ケア病棟
	看護の統合と実践実習	看護の統合実習	2（90）	3年次	臨床現場における看護を統合的に理解する	西尾市民病院